大阪大学
千石会４０年

（大阪大学退職事務系職員親睦会）

令和３年度

大阪大学千石会は、令和3年（2021）に創立40周年を迎えました

令和3年7月30日　千石会 役員会
左から （上段）中島、玉置、林、 楠本、徳永、 三井、岩川
（下段） 今井、 遠山、 竹村、 松本、 藤井

**********★**********

2021年は、大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年

スローガン　**想い　つなげる　つむぎあう**

2021年は、大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年、中之島キャンパス再開発、箕面新キャンパスへの移転など大阪大学にとって記念すべき年であり、「想い　つなげる　つむぎあう」というスローガンは、そこに向けて今を生きる私たちの気概を表現しています。

大阪大学を創立100周年、その次の100年、さらにずっとその先の未来にもつなげていくために、伝統に敬意を払い、変革をおそれず未来に向かっていく私たち構成員の姿勢を表現したスローガンです。

千石会の創立40周年と同じ年に、大阪大学は創立９０周年、そして2007年に統合した大阪外国語大学（現在、外国語学部）が創立100周年を迎え、粟生間谷キャンパスから箕面市船場東に移転し、新箕面キャンパスが誕生した。

目　　次

千石会　創立４０周年を迎えて　竹　村　秀　次・・　２

千石会４０周年をお祝いして　西　尾　章治郎・・　３

千石会　設立の経緯　・・・・・・・・　４

千石会４０年の歩み　・・・・・・・・　６

千石会ホームページの開設経緯　・・・・・・・・１４

写真で辿る千石会　・・・・・・・・１６

寄稿　中目次　・・・・・・・・２７

大阪大学の変遷　中目次　・・・・・・・・５５

大阪大学千石会　会則　・・・・・・・・８９

編集後記

千石会 創立40周年を迎えて

千石会会長　竹 村 秀 次

大阪大学千石会は、昭和57年に我々の先輩が設立され、令和3年に創立40周年を迎えました。この会の設立趣旨は、大阪大学発展の一翼を担ってきた事務系職員が退職後も互いに交流し親睦を重ねることを目的としており、一般的な同窓会とは異なり、定年直後の60歳から90歳を超える会員及び現役の賛助会員を含めた世代を超えた親睦会となっております。

このような趣旨の会が、ここ2年間のコロナ禍による止むを得ない中止を除き一年も欠けずに開催されてきたことは国立大学でも数少ないと思います。40年の歴史を重ねることができましたことは、会員の皆様のご協力と、歴代役員の会運営の取り組み、そして何より発足以来、会の顧問である大阪大学事務局長（現理事）をはじめ、総務部総務課の多大なるご支援・ご協力の賜と深く感謝申し上げます。

創立40周年に当たっては、会員皆様と共に祝うため、企画委員会を設置し検討してまいりましたが、コロナ禍の影響で、総会・懇親会を中止せざるを得なかったのは誠に残念ですが、企画の一つである「千石会の創立40年史」を発刊できましたことは、誠に喜びに耐えません。限られた紙面ではございますが、皆様が勤めてこられた懐かしい職場を想い出しながら、ご覧頂ければ幸いです。

千石会は、会員の高齢化に加えて、価値観の違いや、時代の変化もあって会員の減少という問題点がございますが、創立40周年を機に改めて、過去から現在そして未来へと会員の絆を繋ぎ、先輩が作り上げて下さった基盤を大切にしながら皆さんと力を合わせて親睦の輪を広げていきたいと願っています。

私達が苦楽を共にし、お世話になった懐かしい職場、大阪大学発展に心を馳せつつ、退職後の生活を十分に楽しみながら少しの時間を千石会にも向けていただき、皆さんのお力を頂いて、これからも50周年、60周年と、千石会が元気に進んでいけますようご支援をお願いいたします。

そしてなによりも、健康に留意されて、今後も総会・懇親会に元気にご参加頂きたく、会員皆様のご健康とご多幸をお祈りして挨拶と致します。

千石会40周年をお祝いして　大阪大学総長　西 尾 章 治 郎

このたび千石会が創立40周年を迎えられましたこと、心からお祝いとお慶びを申し上げます。併せて会員の皆様には、大阪大学の発展のために格別のご尽力とご支援を賜ってまいりましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

千石会は、本学に事務職員として在職した方々が、終生互いに交流し、親睦を重ねることを目的として、大阪大学創立50周年の節目に、会の発起人の方々が集い、設立のための協議が行われたと伺っています。

昨今のように社会情勢の変化が激しい世の中で、千石会が今日のご隆盛を成し遂げられましたのは、創立にご尽力された発起人の方々、創立後、同会の活動を牽引してこられました歴代の会長、役員の皆様方をはじめ、すべての会員の皆様方の多大なるご尽力の賜であると、心より深く敬意を表します。

私自身、部局長や総長に就任する以前から、学内センターの創設、組織の再編などの重要な事業に携わる機会に恵まれてきました。その度ごとに事務職員の方から、「組織改組後の事務関係のことは何とか立ち上げていきますので、そのことは心配せず、とにかく実りある改革を進めてください。」と心強い励ましのお言葉をいただきました。どれだけ勇気づけられたか計り知れません。こうした経験に支えられながら、現在、「教職協働」、すなわち、教員と職員が分け隔てなく混然一体となって協力して働き、本学の発展のために大きな貢献していく体制づくりを一歩一歩着実に進めております。

総長就任後、千石会総会に都合がつく限り参加をしてまいりました。共に働き、助けていただきました多くの方々との語らいのひとときを楽しみながら、皆様が千石会を心底大切にされ、親睦を深めていらっしゃる姿に何時も感心してきました。
本年、大阪大学は創立90周年の記念の年を迎えています。本学はこれまで以上に社会との共創（Co-creation）を通して、地域から世界全体に及ぶさまざまな課題を解決し、「生きがいを育む社会」の創造を目指してまいります。「生きがいを育む社会」の創造とは、個々人が社会で活躍できる社会寿命を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を生かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会を創造することです。

千石会の皆様におかれましても、このような本学の活動に引き続きご理解とご協力をいただけますとともに、後輩の事務職員はもとより、大学運営を担っております私どもに対しても、是非ご助言を賜れますと幸いです。
千石会と会員の皆様方の今後ますますのご繁栄とご多幸を切にお祈り申し上げて、お慶びとお礼の言葉の結びとさせていただきます。

千石会　設立の経緯

事務系退職者の同窓会的な会の設立の動きは、昭和５６年春頃からあったが詳記録は残っていない。そのため、設立後、最初の千石会だよりの内容からその経緯を辿ることにする。

千石会設立経緯

（千石会だより第１号（昭和５９年５月発行から引用）

昭和５６年の春頃より志のある者が寄り集まり、大阪大学も設置以来５０年も経過した今日、大学運営の陰の力となって半生を尽くしてきた事務系の退職者に関しては、大学事務当局者も次々と移り替わり、忘れられた存在となることは、なげかわしいことなので何らかの連帯組織を作ることを望む声が生まれた。その懇談の後、昭和５６年９月中旬医学部会議室に大学各部局の退職者のうちから１人宛が集まり会の設立に関し話し合われ、会員の範囲、会の名称、会運営の事務等、会の組織作りが協議された。その時の参加者が発起人となり、会の設置に尽力することとなった。

発起人は下表の方々であった（５０音順）

池田辰治	池田正信	大谷友正	川島忠治	粕谷利雄
白井茂太郎	田中喜彦	谷村定雄	樽井保男	筒井美治
辻　忠男	豊永　実	福岡博一	松野善治	森　徳一

その後、発起人の内3名が大阪大学の中西貞夫事務局長に面会し、会の設立構想について説明したところ賛意を表され、会員の範囲を拡大するよう示唆を受け、会則も他大学の実情を調査することを約された。その後、総務課の協力を得て会則案の検討、会員予定者の名簿作成と入会勧誘に努め、昭和57年度早々に発会式及び第1回の総会を開催することを決めた。昭和57年4月に中西事務局長が転出され、後任に水村博昭事務局長が着任されたので協力方を依頼したところ、先だっての文部省の会合においても退職者の処遇についての話があったので、事務局としても会の運営に全面的に支援するので会の結成を強力に推進するよう励まされた。

千石会の名前の由来

会の名前を検討するにあたり、各人の意見の中から、当時、吹田キャンパスは「千里キャンパス」と、豊中キャンパスは「石橋キャンパス」と呼ばれていたことから、それぞれの地名の頭文字を取り、「千石会」と名付けられたという。 今となっては命名者は不明である。

千石会発会式と第1回総会

昭和57年(1982年)5月29日 大阪大学本部会議室において、大阪大学退職事務系職員懇談会の発会式が行われ、会の名称を「大阪大学千石会」とする会則が承認され、辻 忠男氏を会長に選任した。

発会式の後、医学部学友会館に新設された職員食堂において大阪大学の現職員(賛助会員)も加わり、第1回総会が開かれ、辻 忠男会長の挨拶、大阪大学水村事務局長の挨拶の後、千石会設立の趣意をかみしめながら懇親会が盛大に催された。

第一回総会・懇親会が実施された医学部学友会館の全景

昭和57年（1982）5月29日、大阪大学に事務系職員として在職したものが終生互いに交流し、親睦を重ねることを目的として「千石会」が創立された。

千石会４０年の歩み（昭和５７年～平成３年）

回数	総会・懇親会開催			総会参加	会長	会員数		事務局長
	元号	西暦	月日			会員	賛助	
1	昭和 57年	1982	5.29	41	辻 (忠)	78	78	水村
2	昭和 58年	1983	6.09	49	〃			〃
3	昭和 59年	1984	6.02	65	池田(正)	122	81	〃
4	昭和 60年	1985	11.16	47	〃			石井
5	昭和 61年	1986		—	〃	152	85	十文字
6	昭和 62年	1987		—	〃			〃
7	昭和 63年	1988	10.29	55	池田(辰)			上野
8	平成　1年	1989	10.28	52	伊藤			〃
9	平成　2年	1990	10.27	60	〃	205	85	糟谷
10	平成　3年	1991	10.04	54	〃	216	81	〃

千石会の主な動き	千石会だより	大阪大学の主な動き
○会長に辻　忠男就任		○総長　山村先生 ○情報処理教育センター開所 ○細胞工学センター　設置 ○RI総合センター　設置
	No.1	
○会長　（辻　忠男　➡　池田　正信） ○必要に応じて「顧問」「相談役」を置くことができることを承認		○吹田地区体育施設　完成 ○細胞工学センター　新築落成
	No.2	○総長　山村先生　➡　熊谷先生 ○健康体育部研究棟・体育館　竣工
	No.3	○ 極限物質センター　設置
		○吹田キャンパス正門　開通 ○図書館吹田分館新館　落成
○会長　（池田　正信　➡　池田　辰治）	No.4	○荒田記念館　完成 ○医・医病 吹田地区移転工事起工式
○会長　（池田　辰治　➡　伊藤　吉良） ○3年以上音信不通の会員については名簿には記載しておくが、総会開催等の通知は行わないことを承認	No.5	○言語文化研究科　設置 ○極限物質センター　完成
	No.6	○超伝導エレクトロニクスセンター　設置
○総会開催日(土)を週休二日制を考慮し本年度から金曜日に変更 ○懇親会費を諸物価高騰のため4千円から5千円に改定することとした	No.7	

千石会４０年の歩み（平成４年～平成１３年）

回数	総会・懇親会開催			総会参加	会長	会員数		事務局長
	元号	西暦	月日			会員	賛助	
11	平成　4年	1992	10.09	61	〃	238	83	糟谷
12	平成　5年	1993	10.28	53	箸尾谷	254	85	〃
13	平成　6年	1994	11.11	56	榮田	267	88	田原
14	平成　7年	1995	11.08	63	〃	271	92	岡林
15	平成　8年	1996	11.29	81	〃	269	97	小林
16	平成　9年	1997	11.07	71	〃	258	101	三村
17	平成 10年	1998	11.13	69	〃	256	103	〃
18	平成 11年	1999	11.12	62	〃	259	104	坂本
19	平成 12年	2000	11.09	63	〃	258	112	〃
20	平成 13年	2001	11.09	72	〃	273	116	笠井

千石会の主な動き	千石会だより	大阪大学の主な動き
	No.8	○生命科学図書館　設置 ○大学改革の具体的検討進む
○会長　（伊藤吉良　➡ 箸尾谷 孝一）	No.9	○医・医病が移転し、吹田・豊中への統合が完了した
○会長　（箸尾谷孝一　➡　榮田　仁）	No.10	○国際公共政策研究科　設置 ○医学部保健学科　設置
	No.11	○平成7年1月17日 阪神・淡路大震災 ○生物工学国際交流センター　設置
○ 会員車両は会員証提示で大学構内に無料入構できることが了承された	No.12	○大学院重点化の動きが盛んになる
○総会の開催日を、平成10年から11月の第２金曜日に固定することを承認した	No.13	○ 総長　金森先生　➡　岸本先生
○会員の附属図書館利用が可能となる（要手続き）	No.14	○大阪大学学報の愛称 決定 ○大阪モノレール阪大病院前開業 ○阪大ニュースレターの創刊
○3年間会費を未納の場合は、任意退会したものとみなし、名簿から削除することを承認した	No.15	○調達センター室が発足
	No.16	○サイバーメディアセンター　設置
	No.17	○大阪大学が創立70周年 ○太陽エネルギー化学研究センター　設置

千石会４０年の歩み（平成１４年～平成２３年）

回数	総会・懇親会開催			総会参加	会長	会員数		事務局長 H16から理事
	元号	西暦	月日			会員	賛助	
21	平成 14年	2002	11.08	67	長谷川	277	114	笠井
22	平成 15年	2003	11.14	79	〃	307	116	北見
23	平成 16年	2004	11.12	74	根来	305	113	〃
24	平成 17年	2005	11.11	85	〃	311	109	〃
25	平成 18年	2006	11.01	65	辻 (仁)	333	110	〃
26	平成 19年	2007	11.09	81	〃	354	109	佐々木
27	平成 20年	2008	11.14	59	〃	383	99	月岡
28	平成 21年	2009	11.11	73	〃	412	82	〃
29	平成 22年	2010	11.11	78	阪本	415	74	尾山
30	平成 23年	2011	11.11	79	〃	414	82	〃

千石会の主な動き	千石会だより	大阪大学の主な動き
○ 会長　（榮田　仁　➡　長谷川昭次郎）	No.18	○大学院生命機能研究科　発足 ○情報科学研究科　設置 ○総合学術博物館　設置
	No.19	○総長　岸本先生　➡　宮原先生 ○生命機能研究科　設置
○会長　（長谷川昭次郎　➡　根来　勲）	No.20	○国立大学法人大阪大学へ 移行 ○高等司法研究科　設置 ○環境安全研究管理センター　設置 ○中之島センター 開設
○総会を初めて中之島センターで開催	No.21	○天神祭船渡御に 初参加 ○大阪大学同窓会連合会 発足
○会長　（根来　勲　➡ 辻　　仁）	No.22	○阪大坂 全面リニューアル ○第1回 阪大ホームカミングディ
○千石会が創立25周年	No.23	○総長　宮原先生　➡　鷲田先生 ○大阪外国語大学と 統合（外国語学部） ○日本語日本文化教育センター　設置 ○免疫学フロンティア研究センター　設置
	No.24	○ナノサイエンスデザイン教育研究センター設置
○会則改正（役員の定年制他） ○総会を附属図書館で開催	No.25	○連合小児発達学研究科　設置
○千石会ホームページ 開設 ○会長　（辻　　仁　➡ 阪本重男）	No.26	○国際教育交流センター　設置
○千石会創立30周年 ○大阪大学会館で開催	No.27	○大阪大学　創立80周年 ○平成23年3月11日 東日本大震災 ○総長　鷲田先生　➡　平野先生

千石会４０年の歩み（平成２４年～令和３年）

回数	総会・懇親会開催			総会参加	会長	会員数		理事
	元号	西暦	月日			会員	賛助	
31	平成 24年	2012	11.09	73	石川	389	81	尾山
32	平成 25年	2013	11.08	78	〃	371	76	〃
33	平成 26年	2014	11.14	70	平ノ上	363	71	大木
34	平成 27年	2015	11.13	―	〃	347	70	〃
35	平成 28年	2016	11.11	72	〃	337	69	鬼澤
36	平成 29年	2017	11.10	67	楠本	331	74	〃
37	平成 30年	2018	10.12	69	〃	321	74	〃
38	平成31年 令和元年	2019	10.11	61	竹村	313	66	鈴木
39	令和2年	2020	中止	中止	〃	305	54	奈良
40	令和3年	2021	中止	中止	〃	289	47	奈良

千石会の主な動き	千石会だより	大阪大学の主な動き
○会長　（阪本重男　➡　石川　ユキ） ○千石会ホームページリニューアル ○会員であれば現職時の役職に関係なく誰でも会長、副会長、幹事に選出されることを承認	No.28	○まちかね保育園開園 ○全学教育推進機構発足 ○大阪大学アーカイブス設置 ○大阪大学未来戦略機構の設置
○千石会会員資格は概ね２０年以上勤めた事務系職員と改正することを承認	No.29	○大阪大学・情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター　設置 ○天皇・皇后両陛下の行幸啓
○会長　（石川　ユキ　➡　平ノ上　昭夫） ○千石会ホームページアクセス4000件	No.30	
○賛助会員の懇親会費を５千円から４千円に値下げ	No.31	○国際医工情報センター　設置 ○数理・データ科学教育研究センター　設置 ○総長　平野先生　➡　　西尾先生
○千石会創立３５回、賛助会員懇親会無料招待	No.32	
○会長（平ノ上　昭夫　➡　楠本　征三） ○懇親会で名札を配布	No.33	○レーザー科学研究所に改組 ○キャンパスライフ健康支援センター　設置
○大阪北部地震発生 ○総会で役員の再任が続いており、自薦・他薦を問わず役員の推薦を頂きたいと説明	No.34	○知的基盤総合センター　設置 ○大阪大学・理化学研究所科学技術融合研究センター　設置
○会長（楠本　征三　➡　竹村　秀次） ○共創イノベージョン棟会議室１で総会開催 ○再任が続き長期化している。ぜひ会の運営に協力頂きたいと説明	No.35	
○コロナ禍のため役員会はメール審議となる ○コロナ禍で総会・懇親会は中止	No.36	
○千石会創立40周年、40年史発行 ○役員会は面談で開催 ○コロナ禍で総会・懇親会は中止	No.37	○大阪大学が創立90周年 ○大阪外国語大学100周年 ○総長　西尾先生再任

千石会ホームページの開設経緯

◆ 千石会ホームページの開設検討

（辻　仁（平成21年当時会長）

平成21年10月の役員会において、400名を超える会員に対して、本会に係る情報は、年1回の総会出席者でないと知ることができない現状から、会員間で情報を共有する環境が必要ではないかとの意見があり、その方法として、千石会のホームページを立ち上げようではないかということになった。

その後、検討グループ（辻 会長、楠本、堀田）で具体的な内容を検討し、ホームページ作成は楠本協議員が担当することになりました。

（楠本協議員）

検討グループの結果を踏まえ、作成経験もないまま、「ホームページビルダー」なるもののマニュアルと首ったけで作成したのが下のトップページでした。

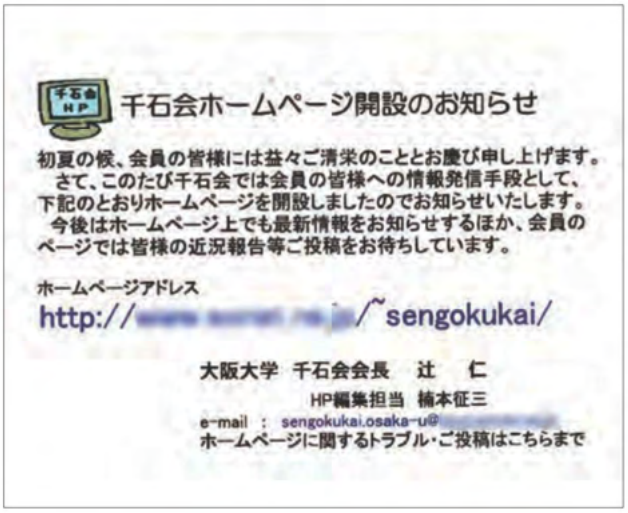
ホームページを公開（平成22年6月）

（平成22年総会での辻　会長挨拶）

現在400名を超える会員の情報ツールとして、本年6月「千石会ホームページ」をスタートいたしました。 会の基本情報の周知や記録、会員間の相互連絡、大阪大学の動き、イベント情報なども家に居ながらにして瞬時に知ることができます。

これからも、このホームページを十分に活用して頂き、日常の生活に少しでも潤いを感じて頂ければ幸いです。千石会が、「心の安らぎを覚える故郷（ふるさと）での集い」でありますよう、皆様方の更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成22年6月（ホームページ開設案内ハガキ）



千石会ホームページ開設のお知らせ

初夏の候、会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび千石会では会員の皆様への情報発信手段として、下記のとおりホームページを開設しましたのでお知らせいたします。
今後はホームページ上でも最新情報をお知らせするほか、会員のページでは皆様の近況報告等ご投稿をお待ちしています。

ホームページアドレス
http://[redacted]/~sengokukai/

大阪大学　千石会会長　辻　仁
HP編集担当　楠本征三
e-mail ： sengokukai.osaka-u@[redacted]
ホームページに関するトラブル・ご投稿はこちらまで

ホームページ開設から2年経過して

○ホームページの管理は、個人所有のパソコン1台で、更新作業は管理者しかできないこと。

○記事は、管理者が連絡を受け入力しているので管理者に支障が生じた場合は対応できないこと。

○管理パソコンの故障やソフトが不安定になると、更新作業が不能となる。

○使用しているソフトでは、データ量に比例してサーバー料金が増え将来的に経費面で問題となる。

そこで、これらの問題をどうすれば解決できるかを、大型計算機センター時代に一緒に仕事をした仲間で、情報処理技術に長けておられる藤井博さんの協力を仰ぐことにした。

ホームページのリニューアル検討

（藤井　博）

楠本さんの頼みでもあり、協力できのであればと引き受けました。

現状は楠本さんが契約しているサーバーの利用で運用されており、将来は阪大のサーバー利用を検討されていたようですが、難しい問題があり進まなかったようです。

そこでレンタルサーバー、CMSのWordprssを提案し、どんなことができるのかを参考書籍やネット情報を検索しながら試行錯誤しました。

目標とした点

① ホームページの更新作業を複数人が担当可能し管理体制の向上を図る。

② ホームページの閲覧範囲を会員に限定した場合「会員登録」が必要になり、毎年の会員異動に伴う登録作業も大変です。
一方、非会員の退職者と現職の阪大職員は閲覧できなくなります。このため誰もが閲覧できるシステムとしました。ところが③のような問題が生じます。

③ 会員からの投稿をホームページ上でできるよう検討しました。そうすると世界中どこからでも閲覧できるかわりに誰もが投稿できることになります。投稿のなかには、誹謗中傷や千石会に関係のない悪意のあるスパム入力（特に外国から）が予想されます。
この対策として、「管理者」が掲載の可否を判断してから公開するシステムにしました。このため投稿から掲載するまでの時間差が生じることについてはご寛容願うことにしました。

④ ホームページは会員の皆さんに新しい情報を伝えるものです。総会・懇親会の写真をアップした直後は閲覧数も増えますが、1ヶ月もすると激減します。 読者が訪れるように新しい記事を掲載する必要があります。以前、楠本さんは「今日は何の日」の投稿を365日毎日毎晩更新さていました。大変な作業だったと推察します。
2年目はどうされるのかと考え、この一年分のデータをデータベース化しサーバーの今日の日付から自動的に表示するようにプログラムしました。
サーバの日付からデータベースを検索して今日は何の日を自動的に表示させることで読者を飽きさせない工夫をしています。

CMSとは
(コンテンツ・マネージメント・サービス)
専門的知識がなくても簡単にホームページ制作ができるよう作られたソフトウエア・アプリケーションのこと。

ホームページをリニューアル公開（2012年

トップページを一新し、閲覧を解りやすくするため、多くのメニューを用意しました。例えばメニューの「投稿入力」をクリックすれば、皆さんの日頃の出来事や旅行記、川柳などを簡単に投稿することが可能となりました。
又、皆様への「お知らせ」なども直ちに反映いたします。同時に閲覧者の概数がわかるようにアクセスカウンターを設置しました。

サーバーの容量増強（2014年）

レンタルサーバーは当初10GBであったが100GBに容量増加、現在の使用量が8GBなので、写真はドンドンアップできる。

スマホ用に表示を変更（2019年）

ホームページの閲覧がパソコンからスマートフォンに変わりつつある現状から、モバイル用に表示方法を変更しました。「ようこそ！」が表示され、「メニュー▼」をタップするとパソコン画面と同様のメニューから見たい項目をタップすると最近の内容がご覧になれます。画面の下にあるPCをクリックするとパソコン用の画面に変更することも可能です。

ホームページに投稿してみませんか

あっ　私が書いたの
スマホで見れる
皆に教えたろ

投稿はメール感覚で
HPの投稿入力から簡単

ホームページの管理を体験してみませんか

プログラミングの必要は全くありません。
使い方をちょっと覚えるとメール感覚で新しい世界が開けます。

お問い合わせ　会員で興味がある方、関心がある方　ご連絡ください。
HPの投稿入力から
又は renraku@sengokukai.ne.jp

写真で辿る千石会　①　第7回集合写真・ 阪大Now(第24回分)

探した中で一番古い集合写真です（昭和６１年第７回）（辻　仁さん提供）

第２４回総会・懇親会は中之島センターで行われた。

（阪大Nowから）

第24回千石会総会・懇親会開催（2005）

11月11日(金)大阪大学中ノ島センター７階講義室において、第24回千石会総会が行われました。
議事に先立ち、阪本総務幹事による開会の挨拶、叙勲受章者の紹介及び物故者への黙祷が行われた。
引続き、根来　勲会長から、新規会員、会員数等の報告の後、平成16年度会計報告が行われました。
最後に、北見耕一顧問（事務局長）から本学の近況報告があり、閉会となりました。
総会後、１０階佐治敬三メモリアルホールにおいて、賛助会員の参加を得て懇親会が賑やかに行われた

（総務部総務課）

写真で辿る千石会　②　　第30回ー1

第３０回総会・懇親会は大阪大学会館で開催

2011年は、3月11日東日本大震災と大津波に襲われた忘れられない年となり、哀悼の意をこめた総会となりました。

目録

一、金参拾萬圓也

右　災害等の被災学生支援のため
大阪大学未来基金にお贈り致します

平成二十五年十一月十一日

大阪大学千石会

大阪大学総長
平野俊夫　様

東北大地震と津波による被災学生支援のため大阪大学未来基金に千石会創立３０周年事業の一つとして３０万円を寄付した。

30周年記念事業として、阪大総合学術博物館の見学と講演会を開催した。

総合学術博物館見学

講演会

写真で辿る千石会　③　　第30回ー2

第30回懇親会

長谷川さん乾杯発声

第30回 懇親会
（於;阪大会館）

写真で辿る千石会　④　　第30回ー3

第３０回懇親会・阪大会館

写真で辿る千石会　⑤　　第35回ー1

第３５回　平成28年11月11日

第 35 回大阪大学千石会総会　平成 28 年 11 月 11 日　コンベンションセンター

総 会

阪大の現況報告

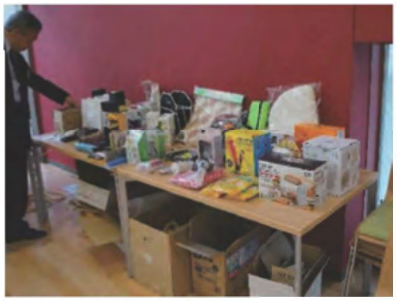
写真で辿る千石会　⑥　第35回ー2

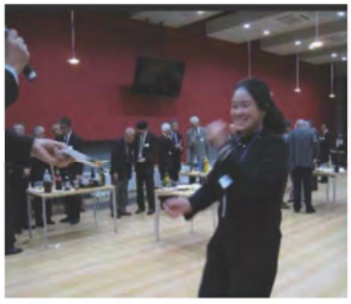
西尾総長特別参加

女性団長の阪大応援団特別出演
千石会35周年にエール

センゴクカイ

写真で辿る千石会　⑦　　第35回ー3





写真で辿る千石会　⑧　　第37回ー1

第37回　千石会総会2018

鬼沢理事　阪大近況報告

写真で辿る千石会　⑨　第３７回ー2

西尾総長特別参加

写真で辿る千石会　⑩　　第38回ー1

第38回
総 会

写真で辿る千石会　⑪　第38回ー2

鹿児島から参加の有川さん乾杯発声

寄稿（中目次）

沢山の皆様に支えられて	石川ユキ	・・２８
ダメ虎応援歌	池邊満紀	・・２９
おふくろの味	植田守彦	・・３０
阪大４６年夢幻の如く	大澤眞一	・・３１
大阪大学での４１年間を振り返って	木村宏	・・３２
断捨離を逃れた司馬遼太郎	楠本征三	・・３３
阪大時代の思い出	永島弘一	・・３４
北海道に移住して１０年	渡瀬勉	・・３５
大阪大学出版会創設時の思い出	有川宣明	・・３６
大学と出版と	岩谷美也子	・・３７
徒然なる思い出	岡林隆	・・３８
引越し	遠山裕子	・・３９
沖縄時代の思い出	尾崎一雄	・・４０
松江の思い出	松本吉弘	・・４１
思い出すこと　～四半世紀前の二つの災害～	郡司良夫	・・４２
コロナ禍に負けず、元気に頑張りましょう！	亀井保男	・・４３
出会いと山行	徳永壽美子	・・４４
阪大在職中の三つの出来事と退職後のこと	岩國健一	・・４５
想いで深い話と夢の話を語る	長谷川昭次郎	・・４６
２０２１年の夏	植西亮	・・４７
淡路特別の思い出	藤井博	・・４８
「千石会」命名の隠された意	奥平正昭	・・４９
阪大学生部　–たかが４年・されど４年–	三浦永司	・・５０
ひとり旅	中尾仁三	・・５１
千石会　創立４０周年その長い歴史を川柳で	辻仁	・・５２

沢山の皆様に支えられて　　石川ユキ

厚生省から大阪大学へ転任

私の阪大生活は、中之島にあった医学部附属病院本館地下の調査掛で、計算センター分室勤務がスタートであった。

堂島川の田蓑橋付近から見た、昔の阪大病院

昭和31年度から発行されていた入院患者統計を引き継いでの仕事である。病院統計調査委員会で検討された、病名、年齢、費用負担、入院前の受療状況、転帰、等々35項目にも及ぶ「患者カード」を作り受持医が病棟で記入し、退院後カードを回収し、パンチカードを作り機械集計するのである。内容が濃かった分、未記入が多く年間約6000名の入院カルテを追いかけた日々は懐かしい。

その後、時代の流れで病院医事も電算化することとなり、情報処理掛が誕生した。

当時は医事システムはまだパッケージ化されてはおらず、COBOL言語を使っての作りこみであった。初めての試みでもあり、メーカーの方、マシンをメンテする方、そして本院のメンバーなど沢山の人たちがワイワイと賑やかに働く忙しくも楽しい情報処理掛時代であった。しかし、どんなにテストを重ねてもいざ本番になると思わぬトラブルが起こり、窓口で患者さんをお待たせすることになってしまい、何度冷や汗を流したことだろう。

そのせいか、今でもニュースで報じられる様々なシステムトラブルに接すると、担当者がどんなに困って、慌てながら復旧に汗を流していることかとの思いに駆られてしまうのだ。 その他会計検査院との対応、保険医療機関の取り消しに伴う処理、何よりも吹田移転の準備等々で病院ではとても沢山のことを経験させていただいた。

思い出すのは厚生省時代、6カ月の統計研修を受けた時のこと。有名な先生たちからの統計学の授業は本当に難しいものだった。加えて毎日がテストなのだ。そのせいか職場に帰ったある日、なんと3か所も円形脱毛になっていたのだ。まだうら若かった私にはショックであったと同時にキャパシティーを超えたら円形脱毛になることを学んだのだ。その後無事に過ごせたところを見ると、忙しいとは思ってもキャパシティーを超えることは無かったらしい。

阪大では病院しか知らなかった私であったが、歯学部、大型計算機センターを経て定年を迎えられた。幸いなことに、公務員生活41年、常に上司、同僚、後輩に恵まれていたお陰で仕事はいつも楽しかった。楽しく仕事を続けさせてくれた家族にも大いに感謝している。

そして、めでたく千石会会員になれたのである。

また、力のないまま会長職まで勤めさせていただいたことは、汗顔のいたりである。

千石会懇親会で西尾総長とツーショット

今年もコロナ、コロナで自粛の日々であり、千石会総会・懇親会は2年連続して中止になった。

年に一度みなさんにお会いするのを本当に楽しみにしているのに残念なことである。ワクチン接種が行き渡り、集団免疫が出来るまでは我慢を強いられるようだ。高齢者集団の千石会だから、それぞれが身を守って、お会いする日を楽しみに頑張るしかないようだ！

ダメとら応援歌

池邊満紀

虎はまた尻尾振りふり寝てただけ　ハンシン不随の虎猫だった　平成十三年
野村はんたのんまっせと旗ふれば　Ｖ通り越しＺになりぬ　平成十二年
春安芸で夏秋ずっと甲子園　夢が叶いて冬籠りなし　平成十五年
北京では星野ジャパンに夢託し　甲子園では六甲おろし　平成二十年
夢破れ北京の星は黄昏て　六甲おろしの秋風凍みる　平成二十年
赤星の思いを胸に甲子園　鉄腕強打夢のまた夢　平成二二年
タイガーマスクと名乗る人　そっと手紙とランドセル　阪神？嘘！　平成二三年
ダメ虎にあいそもこいそも尽き果てた　トラ解体で跋魂式を　平成二四年
「九月は勝つな」が阪神の社訓　「弐番手最高」これ天の声　平成二五年
今年もう虎の応援やめました　サンのアンテナ取り外します　平成二六年
オーナーのゆうたとおりに負けたのに　負け方へたやとトップ更迭　平成二七年
超〇〇消化不能の虎でした　五月でシーズン終了でした　平成二八年
無死二塁ボンゴロ二本で点取れぬ　寝虎にＶが来るはずもなし　平成二九年
入園後超変革も最下位で　甲子園からはや卒園に　平成三〇年
釣り行きもトラ応援も特にせず　再放送の時代劇観る　令和　二年

おふくろの味

植田守彦

ゴボウ(牛蒡)は正月のおせち料理に入っているが、ゴボウの根のように末永くありたいと言う縁起物として使われている。

しかし、あの独特の香りと食感が好みに合わないと、食べるのを嫌う人がいる。ゴボウは特有の香りやエグ味を持っているが、これも旨みの一種なので人の好みの問題になってくる。

タケノコだって堀立の多少エグ味のある方が、春の旬の味がして美味しい。

立春も過ぎた春先になると、スーパーの野菜売り場などに若ゴボウが並べられる。若い頃、春がやって来ると、母がこの若ゴボウをよく煮付けてくれた。料理としては何の変哲もない煮物で、若ゴボウの葉、茎、根を綺麗に処理して醤油で煮付けたものだ。若ゴボウの他には細かく刻んだ油揚げを少々入れて、醤油やミリンなど若干の調味料を使うだけで、余計なものは一切入れない。この若ゴボウの煮付けが大の好物で、春がやって来ると毎日のように母にせがんだ。

母も好物であったらしく、毎日のように炊いてくれた。家庭を持つようになって、家内に若ゴボウを煮付けて貰ったが、どうも母の味と違う。

所謂おふくろの味ではないのだ。味付けは同じ醤油味なのだが、出汁の取り方に工夫があるのだろう。

家内はどちらかと言えば濃い目の味付けが好みで、その辺りにも関係がありそうだ。多寡が若ゴボウの味付けで夫婦仲がおかしくなるのもどうかと思うので、あれこれと余計な口出しはしないことにしている。お陰で長い間若ゴボウの煮付けを食べていない。家内はどうも若ゴボウの煮物そのものが好みではなさそうだ。

春がやって来れば、旨い若ゴボウの煮付けと桜鯛の刺身を肴にして一杯やれば言うことなしだ。美人の女将の手酌でもあれば、もうこの世におさらばしても文句はない。そのような妄想を懐きながら、近頃日々を送っている。考えてみればそれ程の贅沢でもなさそうだが、このところ酒を飲んで語り合える相手がめっきりと減ってきた。夜遅く電話でもあれば、また、兄弟や親戚の誰かが入院したのか、或いは、亡くなったのではないかと怯えたりする。私はお陰様で長生きさせて頂いているが、酒でも飲んで脳天気なことでも考えていなければ、酷く気が滅入ってしまうことがある。

若ゴボウは大阪の八尾市が産地の一つで、「八尾若ゴボウ」としてブランド化されている。四国の高松市辺りも一大生産地として広く知られている。若ゴボウは難しく言えば植物分類学上キク科の植物で、この他にもフキ、レタス、アーティチョーク、カモミール、キクイモ、ゴボウ、チコリ、ヨモギ、シュンギクなど野菜として食用に供されている。

キク科の植物は花木、食用、薬用、野草として数多く分布している。植物の中でこれ程多く分化したものはないと言われている。

先日スーパーでキクイモが販売されているのを見かけた。キクイモは北米大陸が原産で、我が国へは豚などの飼料に輸入されたらしい。

戦後の食料不足で救荒植物として利用されたが、デンプン質が少なく、言わば空腹を満たすために栽培された。食料が豊かになった現在、野生化して日本中に広まった。

若ゴボウなどキク科の類は繊維質が豊富で、ミネラル分が多く、便秘症などに効果があり、毛細血管を強化し、血栓を防止する効果もあるようだ。ゴボウ、シュンギク、ヨモギなど香りが嫌だと言わずに、健康維持のために大いに食べるようにしよう。

阪大46年 夢幻の如く

大　澤　眞　一

最近、夢で阪大勤務時代の職場状況の夢をよく見る。「アァ明日までにこんな沢山のことは出来ない!」と嘆いている時、目が覚めて、アァ！退職後10年も経っているのだ、とホッとする。

東野田にあった工学部に採用

吹田への移転作業が始まった頃、仕事終わりの17時以降、各建物を回り、銅線回収等を日通の人と夜半まで。後は、京橋「カツー」等での立飲の日々。

医病窓口業務時代は、支払時に並ばされた患者さんから「早よせ！」と、傘でつつかれたりした後、施設部企画課へ、17時から、建築・設備の技官さんと「長期委員会」という名の飲み会、二次会は「まんぷく亭」のコースでした。

学生部寮務係主任になると、当時、大学紛争中で特に学寮問題の渦中、厚生課長が黒ヘル連中に口大講前で拉致され、救出指令が出たので駆け出し、引っ張り出し助け出したが、私以外誰も来なく、連中の竹竿で頭、背中を小突かれながら、職場に帰り、他の職員になぜ来なかったのか聞くと、「状況を見て、危険であれば行かなくてもいい」とのこと。そんなこと聞いてないよとボヤき、その夜は、石橋の立ち飲みで、係長らに文句飲み。

宮山寮仮処分執行時、機動隊、マスコミ、付近住民等に囲まれた中、私と熊谷学生部長とが、黒ヘル（外部不法者）等を退去さすため294室毎に退去命令し、ドアを開けるというミッション。

当時の　宮山寮

機動隊の隊長らしき人に、連中が部屋から飛びだして来てケガさせられないよう、側について欲しいと願うと、「流血されたら行きます」とのこと。私も、熊谷先生もお互い顔が真っ白になる。

その後、先生は総長に、私は庶務課秘書係へ、主任は、主に事務局長担当で、当時、本省から来られた十文字さんで、17時以降は大阪の美味しいものを求め、よく飲み歩き、梅田「大甚」のテッチリは二人の大好物でした。

二人共オペラ好きで、同好会を阪大に創ることになり、現在も続いており、今も幹事をやらされています。

今だから話せることですが、当時、学内交通規制の導入、微研病院の統合問題があり、局長と、総長はじめ教官とは必ずしも意見が一致していなかったので、梅田の「おちか」で微研の先生と局長との懇談の場を設けたのですが、口論、ケンカになり、ママさんと私で止めるのに大変なこともありました。

熊谷先生とは、紛争時代の事務系の戦友達と先生を囲む「親熊会（しんゆうかい）」という飲み会をお初天神前の「八幸」で、昭和の時代から先生が存命中まで、女将には学割料金ということで続きました、この時もずっと私が幹事だったなぁ。

ある時、熊谷先生が遅れて来られたので理由を聞くと、宝クジを買うため並んでいたとのこと。
私が、お金は家に唸るほどあるでしょう。と言うと「大澤君、あれはいくらあっても邪魔にならんで」と真顔で言われ、おっしゃる通り、さすが元阪大総長と唸った。

また、熊谷先生が最後の入院中、側にいた植本秘書に、「大澤君には、局長との間で大変苦労かけた。」との優しい言葉があったとのこと。

こういった大変な出来事は、夢に出ず、行った飲み屋さんで飲み食しょうとする前に、夢幻の如く覚めるのである。

それにしても何かにつけてよく飲んだものである。今は下手な句でもひねってボケ防止に努めて居るのだが？。

宵桜　人肌燗の　恋の酔い

（いずれ千石会HPに投稿しようかな・・・）

大阪大学での41年間を振り返って　　木　村　　宏

堺市時代の産業科学研究所に採用

私が阪大にお世話になったのは昭和30年（1955）だ。産業科学研究所が大和川を渡った堺市にあった。

（昭和33年当時、堺市にあった産業科学研究所）

木造二階建ての本館の中庭には躑躅が見事に咲いていたのを覚えている。

この産業科学研究所は、阪大の本部事務局・理学部、医系部局等があった中之島地区と文系学部のあった石橋地区とは離れており、ちょっとした別世界であった。

先生も事務も一緒になって働ける家族的な雰囲気があった。この産業科学研究所に8年にわたり社会人として初の職場を謳歌させて貰ったのだ。

学内各部局を異動

昭和38年に産業科学研究所から本部事務局経理部に配置換となり、この経理部に8年、次に たんぱく質研究所に3年、再び経理部に11年、レーザー核融合研究センターに2年、再びたんぱく質研究所に3年、医学部に4年、最後に微生物病研究所に2年と小生の阪大人生は続いた。通算すると41年となる。 微生物病研究所を最後に退職したのは平成8年（1996）だ。阪大を退職してからは、（財）蛋白質研究奨励会に7年、（財）阪大微生物病研究会（非常勤）に4年お世話になった。現在は世界中が新型コロナウイルスに脅かされている令和3年（2021）で86歳になっている。身体に気をつけながら静かに年金生活を続けている。

以上が私の阪大生活の流れであるが、阪大時代の職種は会計マンであったと思っている。大げさに言えば、国家公務員法はもとより財政法、会計法に縛られた日常であった。会計には年度があり、さらに予算と決算がある。これには会計検査院による会計実地検査が毎年実施されるのが恒例であった。この会計実地検査を無事に乗り切れることが会計マンの喜びでもあった。現今の政治屋の規模と比較すれば、ほんの小さな違法事例であっても、真面目に小さな胸を痛めていたのだと思うと涙ぐましくなる。この検査が終わって検査院の調査官が講評を済ませて帰ってくれた時の快感は忘れられない。

千石会との出会い

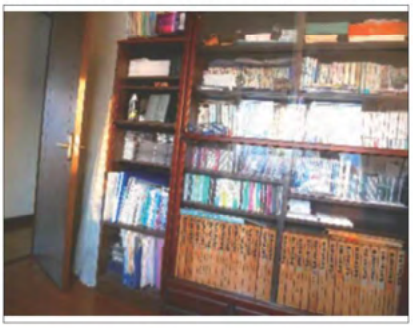
40周年を迎えた千石会は、昭和57年の誕生だから、私はまだ現役の課長補佐の頃で、実際のこの会のありがたさを知ったのは阪大を退職してからだ。毎年年の瀬が近づくと懇親会の案内と会費の納付書を受け取り、久しぶりに旧知に会える楽しみに今もワクワクしている。

（33回懇親会で乾杯挨拶）

私の阪大生活41年の思い出としては、あれも、これもとあるが、今思えば私を育ててくれ、さらに成長させてもらえたのは、教授先生等はもとより、事務の先輩・同輩の絶大な支援と協力が受けられた幸せが第一である。この幸せを深く胸に刻み、深く、深く感謝しながらこれからの余生を送ってゆきたいものと思っています。

断捨離を逃れた司馬遼太郎　　楠本征三

「あんたも先が見えてるんだから本の処分考えたら」と神の声。（実はこれが3回目くらいの整理か？）買って読まずに、いつか読まなきゃと積読であふれる本棚、言われても仕方ない状況に再々挑戦。読まなくても持っていたい、との葛藤の末かなりの本を処分した。スカスカになった本棚が寂しい。きっと読み返さないと思いながら残した中に、好きな作家の司馬遼太郎と松本清張。



二重に置いていたから、かなりの減冊と思ったが‥？

「まだまだ残ってるわね」と神の一言

そういえば司馬遼太郎にはこんな思い出がある。1998年頃庶務課から学報に「私の本棚」というコーナーを設けたのでその第1番に書いて欲しいと依頼があった。庶務課に在籍したご縁もあって引き受けたが、なんと締め切りが三日後、あわてて書いたのが下の投稿であった。司馬遼太郎の山村先生への弔辞、今も本部総務課の金庫に保管されているだろうか。

No. 2−30

司馬遼太郎

武将が出てくる歴史小説、中でも司馬遼太郎が好きである。司馬作品は概して長編が多いが、この本は文芸春秋の巻頭に、亡くなるまでの十年間連載された歴史エッセイ集で、一主題が文庫本約十ページ位と、通勤電車で読むには、丁度切りのよい量なのである。

解説には「日本の成り立ちを、史料を基にした豊かな想像力と独特の史観で捉え直した……」とあるとおり、一主題は簡潔だが含蓄のある内容である。わかりやすく論理が明快で、そして情感がこもっている。

「歴史小説は書くよりも調べるほうが面白い」という氏の取組姿勢は徹底している。明治の日本人を描いた「坂の上の雲」は執筆時間が四年と三ケ月、執筆期間以前の準備期間に五年程要している。

何か一つのテーマに取りかかるとき、現地取材は当然のこと、神田の古書店からテーマに関連する本を残らずかき集め、この膨大な資料すべてに目を通したという。

この一主題わずか十ページのもろもろの文章の中にも「一面だけで物を見ない」という著者の自在な思考と鋭い洞察力が溢れている。

私の本棚

余談ながら、司馬氏の直筆に接する機会があった。くしくも、平成二年に亡くなられた第十一代総長 山村雄一先生への弔辞である。およそ祝辞や弔辞というものは、巻紙に墨で丁寧に書いてあるものと連想するが、そのときのそれは、普通の紙に色鉛筆の訂正と挿入が入り混じったものであった。友人としての惜別の情から推敲を重ねられたことは推量できたが、弔辞というよりも作家の原稿そのものであった。それ以来益々司馬遼が好きになった。

山村先生は、司馬遼太郎氏との「人間について」と題する対談集の中で「司馬さんの小説は独自の司馬史観に裏打ちされている。その中に登場してくる人間が生れ育った土地や環境のなかに、一個の人間としていかに一生を送るか、またその時代の歴史がこの人間を中心にどのように動き、あるいは動かされてゆくか、小説の主人公は時空を超えて私たちの心に訴えてくれる」と述べられている。畏れ多いが、私もまったく同感である。

接合科学研究所　事務長
楠　本　征　三

阪大時代の思い出　　永島弘一

私の阪大在職（施設部）は、医学部附属病院が中之島地区から移転する等大学が最も活気にあふれていた時期の4年間で、その元気さを感じつつ貴重な体験をさせていただいた。関西での生活も、単身生活がスタートしたのもこの阪大からで、不安の多い転任でもありました。しかしながら案に相違して仕事を含め、人と水に恵まれて、関西独特の雰囲気に馴染み、我が故郷みたいな感じで、異動官職としては少し長い4年間の在職期間を楽しく過ごさせていただきました。

この4年間を思い起こせば、私にとって仕事に恵まれたほか自然災害等にも縁があり、平均して年1件の大きな災害等を経験しました。災害等が発生するたびに関係者の協力を得て復旧復興整備に走り回った経験が生々しく思い出されます。以下発生した災害等の概要を在職年代順に振り返ってみます。

○転任した平成3年の10月に基礎工学部校舎において実験中のシランガスが爆発し、多数の犠牲者及び施設に大きな被害が生じる事案が発生しました。シランガスの取り扱いについては、当時法的対応が十分でなく、事案発生を契機に国の関係機関で早急に検討を行い、その後法律化されて関係大学等の研究施設において必要な措置が講じられました。その発端となった阪大の事案でした。

○次は平成5年7月に発生した溶接研（現・接合研）に接する遊水池東側土手（法面）が崩壊し、池の大部分を埋め尽くす事案が発生。崩壊発生の予兆もなかっただけに原因究明を行った結果、古い土手にその後新たに土手をかさ上げを行ったことにより、新旧の境目が生じてかさ上げした部分が滑り落ちたということでありました。

結果的には人的被害はなく、また近接する建物への被害は軽微であったことが不幸中の幸いでした。崩壊した土手の復旧整備は大規模になりましたが、他の調整池についても点検を行い、予防保全策を講じて同様の事案が発生しないように努めた次第です。

○平成6年9月には北摂地区の一部（豊中、伊丹）に想定外の集中豪雨が発生し、伊丹空港ターミナルビルが浸水して一時使用できない事態が発生したほか、阪大石橋地区の総合図書館地階部分も水没、利用できなくなりました。地階部分には保存書庫があり、貴重図書及び資料に甚大な被害が発生しましたが、関係者の努力でほとんどの図書資料等が修復されたと聞いております。また、施設においては復旧整備を行うとともに、新しい図書館構想計画が具体化し、その後図書館機能の充実等を図った新構想による建物が整備されたとか。

○自然災害で最大のものは平成7年1月17日未明に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）に見舞われたことです。都市直下型のため甚大な災害発生をもたらし、6,000人を超える犠牲者、膨大な家屋等損壊が生じ、市民生活は一時大混乱した様子が今でも鮮明によみがえってきます。この大震災で大阪大学も激しく被災し、被災額は施設復旧費だけでも約30数億円を計上し、そのほかに研究実験設備、物品等経費を加えると膨大な数字になったことと思います。

災害発生と同時に被災状況の調査を行い、吹田、石橋キャンパスを始め関係キャンパスの被害状況を手分けして実態調査し、まとめた調書が約厚さ1メートルほどの膨大なものになり、その調書を期限ギリギリの3月本省に提出し　たことを思い出します。そして余談ですが、本省に出向いた折にあの忌まわしい事件・地下鉄サリン事件が霞ヶ関駅で発生し、危うく巻き込まれるところでした。

在籍した4年間に経験した貴重な出来事は、その後も複数の国立学校等を転任した際においても大いに参考になったことはもちろんです。

そして、どんな困難に出会ってひるむことなく前向きに進むことが出来たのは、月並みな言葉ですが上司、同僚そして人に恵まれたことであって、私にとって阪大での経験が欠くことのできない大きな支えになりました。改めて関係の皆様にお礼を申し上げます。

その後定年退官して民間会社に移っても、関東在住ながら大阪が本社という縁もあって、令和2今年6月退職するまでの10数年間、関東と関西を行き来したものです。今でも懐かしく思う次第です。

今も、世界的に新型コロナウイルス感染に振り回され、長期にわたる経済活動の低迷をはじめ社会生活が根底から揺さぶられております。未だ予断を許さない状況ですが、何とか人類の英知を結集して終結し、世界の情勢が平穏無事になることを願ってやみません。そしてこの千石会が益々発展し、いつまでも続くことを願っています。

北海道に移住して10年　　渡瀬　勉

昭和40年4月に阪大に採用されて、以来多くの部署を経験して平成19年3月に定年退職しました。さらに再雇用で2年間、実に44年もの長きに亘り阪大　にお世話になりました。

その間良き先輩や同僚仲間に大変お世話になりありがとうございました。

その後、家でブラブラしていたのですが、平成24年6月に北海道に移住することになったのです。

移住のきっかけは、大阪でサラリーマン生活をしていた娘夫婦達が、これから農夫(婦)になる、それも北海道でというのには驚きましたが、娘夫婦も将来を真剣に考えての結果だと理解しました。

数年経って、網走郡美幌町で農場をやっていた娘から、孫の世話と野菜の選別と出荷の手伝いに来て欲しいと頼まれたのです。もともと寒がりの私でしたが他ならぬ娘の頼みと孫の世話ということで住み慣れた大阪を後にしたのです　娘夫婦の家(農場)にほど近い場所に居を構え、孫の小学校の送迎と生産物の選別や出荷の手伝い等に明け暮れました。生産物は北海道ならではのアスパラやタマネギ、ジャガイモ等が主で、小さい農場ながら夫婦二人でよくここまで頑張ってきたなーと、わが娘ながら感心しています。

美幌町は、のどかな人口2万人弱の小さな町です。家から車で30分もかからない場所に昔「君の名は」の映画で出てくる屈斜路湖を望む日本でも有数の大パノラマ展望として有名な美幌峠があり、又、15分くらいで女満別空港があり、令和3年7月には関空直行便が就航するとか、すごく便利なところです。

大阪ではパチンコ、麻雀、競馬、カラオケスナックとお金がかかる　不健康な生活でしたが、美幌町では、スポーツセンター等の施設が安くて好きな時間に使え、プールやルームランナーで体力づくりができ、ミニバレーボールで地域の方と親交を深めるなど健康的な生活を楽しんでいます。

雪国ならではの苦労もあります。高齢になると毎日の雪かきは体力を要します。また、暖房費用もかかるし、車の手入れや運転にも注意がいります。5月に雪が降ることもありますよ。

家族は家内と二人、いやもう一人？います。知り合いからもらった子猫が今7歳、名前はひよりちゃん、一度も家を出たことがない箱入り娘ですが、わが物顔に家中歩き回り、高い所から眺めているかと思うとソファでグーグー、これがまたなんとも可愛いく癒されます。いまや我が家の主です。

小学校に送り迎えしていた上の孫も今年から東京で大学生、あっという間の10年です。

あとの孫二人がしょっちゅう来てくれるし、東京にいる息子も時々連絡してくれるので平凡でも充実した毎日で北海道に移住して良かったです。

あと、家に居るときはインターネットで大阪大学の近況を見たり、YouTubeで音楽を聴いたりして過ごしています。

ただ、年金暮らしなので千石会へも暫くご無沙汰しています。創立40年の総会には参加できればと思います。今後も千石会の発展を津軽海峡の先から祈っています。

大阪大学出版会創設時の思い出　　有川宣明

1990（平成2）年12月1日付で熊本大学から大阪大学庶務部庶務課長に異動し、1995（平成7）年3月まで4年4か月間勤務した。異動官職としてはかなり長期間在職したおかげで、公私ともに多くのことを経験し、思い出も多い。

大阪大学創立60周年記念事業の推進、大学設置基準の大綱化に伴う教養部廃止と国際公共政策研究科の新設、医学部・同附属病院の移転、交通規制問題、阪神淡路大震災、基礎工学部シランガス爆発事故、国連ボランティアの本学卒業生中田厚仁氏殺害事件、春夏の全国高校野球大会始球式に来阪した文部大臣の世話など次々に思い出す。阪神淡路大震災では本学は拠点大学として支援にあたった。与謝野馨大臣の現場視察の際は本学がワゴン車を運行し、同行してお世話した。車内で作業服、長靴姿でおにぎりをほおばる大臣の姿が忘れられない。随行していた大臣秘書官は、後に事務次官を務めた前川喜平氏だった。

創立60周年記念事業の推進

着任時に引き継いだ最大の課題は創立６０周年記念事業の推進であった。大阪大学後援会の財団法人化、出版会の創設、式服・学章・スクールカラーの制定などを1991（平成３）年５月１日の創立６０周年記念式典までに目途をつけ、式辞の中で報告したいというのが熊谷信昭総長の意向だった。

残された期間は短かったが出版会創設以外は間に合い、イチョウの葉をモチーフにした田中一光氏デザインの学章が式典に彩を添えた。

記念事業の中で財団法人大阪大学後援会とその出版事業部である出版会については、創設時に印象深い思い出があるので紹介することとしたい。

財団法人大学後援会の設立許可については、前任の熊本大学でも担当課長として文部省大学課に再三足を運び交渉したが、担当官は許可申請を何故か認めなかった。

本学では、任意団体の大阪大学後援会を公益財団法人にすることとし、役員構成や基本財産の寄付金に関し熊谷総長が大阪の大企業を精力的に訪問されていた。それに同行して、総長が相談相手にされていた本学卒業で当時サントリー（株）専務の津田和明氏をはじめ、大阪財界の重鎮のほとんどにお会いするという貴重な経験をした。

理事長として関西経済連合会会長宇野収氏の就任承諾を取り付け、財団法人大学後援会設立要件に沿った資金計画や定款案などを策定した。

文部省大学課に設立許可申請書を持参し、担当官に「5月1日に創立６０周年記念式典を挙行するので、それまでに許可をいただきたい」とお願いした。式典まで1か月ほどしかなかったが、担当官は「分かりました。間に合わせましょう」といとも簡単に引受けた。熊本大学での交渉相手と同人物の対応とは思えず、「旧帝」大阪大学の力を実感した。

1991年（平成３年）１月、熊谷総長とアサヒビール（株）社長樋口廣太郎氏との会見に同席したときのこと。総長が「創立６０周年記念事業の一環として、東大や京大のように大阪大学にも出版会を設立したい」と設立基金の寄付を懇請された。「阪大に寄付すれば京大にも同額を寄付しないといけないな」と樋口社長はつぶやきつつ、３億円を３年分割で寄付することを約束された。当時のアサヒビール（株）は、1987（昭和62）年発売のスーパードライが大好評で、業界トップのキリンビールとシェアを争っており、逆転も視野に入れていた。樋口社長は、後にアサヒビール中興の祖と呼ばれたほど勢いがあった。

社長の口頭約束を実現するために、実務担当トップの丹下宏文常務取締役を東京本社に訪ねた。丹下常務は名刺交換時から不機嫌そうであったが、案の定開口一番「社長出身の京大ならともかく、なぜ阪大に3億円も寄付しなければならないのか。株主の了解を得ることは難しい」と、社長の約束に不満げな口ぶりである。
大阪では毎年アサヒビールを飲む会を催すほど

本学と同社との縁は深いのに、東京では無関心のようであった。寄付を実現するために出された難題が、出版会をアサヒビールの名を冠した名称にしろ、例えば「アサヒビール大阪大学出版会」にせよとの要求であった。

大学としてはとても受け入れられないが、何としても寄付を実現しなければならない。出版委員会の脇田修教授とも相談し、最終的に了承を得た解決案が、出版図書の奥付に「大阪大学出版会は、アサヒビール株式会社の出捐により設立されました」と記すということであった。ようやく最初の１億円が財団法人化された大阪大学後援会に入金されたのは、約束から１年以上が経っていた。翌年にも1億円が入金された。大学ではアサヒビール飲料（株）の自販機を構内に設置したり、宴会等ではアサヒビールを飲むことを申し合わせたりして、同社の出版会設立に向けた貢献に報いた。

編集長として民間の出版社から実務経験者の中津氏を採用し、1993年（平成5年）4月、いよいよ出版会が発足することになった。当時大学では、「大阪大学白書」を作成中で、これを出版会発足に合わせて出版会から発行し販売することとし、出版会発足の案内パンフを作製した折、丹下常務から「パンフにもアサヒビール出捐のことを記載するように」との要請があった。まだ残りの1億円を寄付してもらわなければならないので追加印刷して対応した。その後、計画どおり合計3億円が寄付され、このアサヒビール（株）の出捐基金が、今日の大阪大学出版会発展の基礎を築くこととなったのである。

阪大出版会のロゴ

なお、出版会の正式な刊行図書第1号は、「ウイグル文契約文書集成」という日独両語・3巻からなる大著の学術書だった。また、出版図書の奥付は、設立後10年ほど経った頃、記載しなくていいようになったようで、今は記載されていない。

大阪大学の思い出といえば、お仕えした熊谷・金森総長、多くの上司はもとより、苦楽を共にした庶務部の皆さんのことが多い。仕事や飲み会、親睦旅行、釣りなどの思い出を記したかったが、紙幅の都合であえて割愛した。交流のあったすべての人々が、当時の顔、声、しぐさで思い出される。阪大で出会った皆さんに、この紙面を借りて在職中にお世話になった感謝の気持ちを表したい。併せて、大阪大学と千石会の一層の発展を祈念して思い出の記を締めくくることにする。

大学と出版と

元阪大総務課長・元阪大出版会編集長　岩谷　美也子

大阪大学総務課長として1996年からの2年半、その後2018年に退職するまで大阪大学出版会編集長として17年半ほどのあわせて約20年間、大阪大学で仕事をしておりました。

総務課長時代は、大学改革など課題山積の時期ではありましたが、いつも温かく導いてくださった当時の金森順次郎総長のもと、有能で個性豊かな職員の皆さまに支えていただき、楽しく仕事ができましたことは、今でも感謝の念に堪えません。

総務課時代、姫路セントラルパークへ（中央が筆者）

このときの経験や先生方や職員の皆さまとのご縁は、大阪大学出版会でも大いに生かされました。会長でいらした恩師松岡博先生や鷲田清一先生、三成賢次先生、助成等力強いサポートをくださった岸本忠三先生はじめ多くの先生方や各部局の職員の皆さまのご支援によって、学術書はもちろん「大阪大学新世紀セミナー」「阪大リーブル」といった教養書や教科書の新シリーズを立ち上げるなど、大阪大学らしい自由で面白い挑戦をさせていただいた日々を懐かしく思い出します。

徒然なる思い出

岡　林　　隆

千石会発足４０周年おめでとうございます。

私が事務局長を勤めたのは平成７年７月から１年間である。もう２５年以上も前のことであるが、一緒に仕事をした人たちは皆とても優秀で、楽しく仕事をさせて貰った。大学も法人化され仕事のやり方も変わっているし、私も満８０歳を超えて記憶も薄れているけれど、当時を思い出して書いてみたい。

筑波大学から大阪大学へ

前任の筑波大学には１１ヶ月の在任であった。平成７年５月上旬のある日、野崎文部事務次官から江崎玲於奈学長に、岡林事務局長を７月１日付けで大阪大学に転任させたいので、ご了承を頂きたいとの話があった。学長は　「局長は着任して１年未満であり、大学には懸案が山積しているので了承は致しかねる」と答えたとのことである。この当りはアメリカでの生活が長い江崎学長らしい答えであると思う。その後、学長と事務次官との間にどのようなやり取りがあったかは承知していないが、後日、正式に大阪大学の事務局長に内示された。転任を控えた６月下旬、学長は副学長とともに私たち夫婦をホテルに呼んで、立派な送別会を催して気持ちよく送り出してくれたことは記憶に鮮明に残っている。

大学院の重点化

当時、文部省は大学院の重点化を進めており、阪大も理工系学部が先行していた。

平成８年４月、概算要求を前に文科系のトップとして、準備の出来ていた経済学部を説明することとなった。猪木経済学部長、私、岩崎経理部長が説明に上京した。説明の相手方は文部省大学課長であったが所用が入ったため、補佐と係長になった。猪木先生から熱心に説明もしたが反応も鈍く、形式的なヒアリングという気配であった。私も若い駆け出しの頃、大学課に在職していたし、補佐も係長もはるかに後輩ということもあって、「文部省もしっかりして貰いたい。近くの大学の経済学部が重点化されているのに、阪大の近経の経済学部が粗略に扱われることは許せない。」などと捲し立てた。私の剣幕には猪木先生が驚いて、後で「局長さん、あんなこと云って大丈夫ですか。」と心配そうに話しかけられた。先生としては、本省から派遣されている事務局長は、本省の意向を大学内に周知するのが大きな仕事で、楯突くことは全く想定外のことであったのかも知れない。その後、私が退職してから経済学部も重点化され、猪木先生も著書が上梓される度に御本をお送り頂いた。私も忙しい盛りで礼状を出しそびれてしまい、今でも申し訳なく思っている。

事務の電算化

今では当然のことであるが、当時パソコンが普及し始めた頃である。私は職員個人にパソコンを支給することが、大学事務の能率化、効率化には欠かせないと考えた。当時景気浮揚で計上された国の補正予算を大学事務に活用しようと思い、「大学事務の合理化、電算化のモデルケースとして、大阪大学に５億円の予算配分をお願いしたい」と本省に強く陳情した。本省の情報処理課長は課長補佐をしていたときの係長で、会計課の予算班の主査たちも会計課時代に一緒に仕事をした仲間である。関係部署に知り合いが多くいたからではないが予算が示達されることになった。示達には「事務の合理化」という文言を入れるように依頼した。そのような文言がないと、大学の中では教育研究が優先されることになるからである。結局３億５千万が平成８年１月に示達されたと記憶している。

導入したパソコンは当初７００台程であった。職員がパソコンを活用するためには、最初が肝心と考え、部課長から局長に報告、相談する場合には、予めパソコンで概要を報告すること、職員のパソコン研修は業者に依頼し何度でも必ず受けさせることなど、口を酸っぱくして指示したこれは恐らく

職員には不評であったと思う。しかし、数年後、東大の総務部長に変わっていた中原勇夫さんが私学事業団にいた私を訪ねてきて、「東大の事務処理は余りにも遅れている。岡林局長の阪大での指示と頑張りには改めて敬意を表します。」と言ってきた。私としては、当時の取り組みが功を奏したかと思いながら、中原さんの話を聞いていたことを思い出す。

金森総長との思い出

総長は物理学者の金森順次郎先生で、平成３年から６年間に糟谷、田原、岡林(私)、小林、三村の５人が事務局長としてご指導を受けた。退官後も高等教育研究所長など関西で活躍されていたが、所用で上京の時には、この５人が四ツ谷の小料理屋で、先生を囲んで、大学問題などを熱く語り合った。先生が亡くなられた平成２３年まで、毎回ほぼ全員が参加し１０年間ほど続いた。先生が亡くなられてから、改めてお悔やみのお電話を奥様にした。

奥様は「主人は東京で皆様方にお会いすることが何よりの喜びでした。いつもいそいそと出掛けて行きました。長い間有難うございました。」と厚くお礼を言われた。改めて阪大の充実発展に貢献された金森先生に敬意とともに温情ある指導に感謝を申し上げる次第である。

私は、阪大を最後に30数年の公務員生活を終えたが、阪大で働く総ての教職員の健闘と阪大が世界に輝く大学として発展することを心から祈っている。　　頑張れ阪大!!

≫≪≫

引越し　　遠山裕子

この秋10月に40年ちょっと住み慣れた箕面から豊中に引っ越しました。子供たちは独立し、親は他界し、夫とふたりとなったので身の回りを整理しながら、終の棲家を考えていたところタイミングよく娘が住んでいるマンションの隣の部屋が空いたので急遽引っ越しとなりました。

断捨離

退職後は、断捨離と思い、身の回りを整理していましたが、いざ引っ越しするとなると思ったほどの断捨離ができていません。気持ちを入れ替えて嫁入りで持ってきた家具等思い切って処分しました。でもまだまだ、捨てきれず引っ越した今も整理しながら物を納めているような状況です。特に親が大切にしていた物、子供の小さい時の思い出の物等　･･･使うもののみ残し使わないものは処分することの難しさを感じています。

引っ越しで失敗したのは、美味しいビール等中身が入ったまま冷蔵庫を処分したり、当日の着替も用意せずに荷物を詰めこんで、当日は娘夫婦のものを借りる始末とあたふたしました。

また、歳老いても安全なようにとコンロもガスからIHに換えて、間取りも広くとりたくてリフォームもしました。でもIHを使いこなすには時間がかかりそうです。

これからの生活は、孫が学校から帰ってから親が帰るまでの数時間を孫と過ごし、午前中はウォーキング等で体を動かし、年に数回の旅行、観劇等で(今は、コロナで叶いませんが)ふたり仲良く、なるべく他人にはお世話をかけずに、まだまだなんでもできるようぼけずに生涯現役で元気に笑顔で楽しく過ごしていきたいものです。

でも････今は、そのような余裕はなく目の前に積まれた段ボールを横目で見ながら・・・・・

沖縄時代の思い出　　尾崎一雄

特に本が好きだったからというわけでもないが、図書館職員の公務員資格を得て大阪大学附属図書館に採用されたのが昭和39年4月でした。

以降、多くの係を経験させてもらった。仕事以外でも背が高いということで野球部にも入れてもらったが、自分ながら華々しい活躍をしたという記憶がない。一般事務のように他部局への異動もなく定年まで図書館で過ごすものと思っていたが、ある時を境に全国異動の対象になったことに驚いた。

琉球大学への赴任

そして昭和60年4月最初に赴任したのが琉球大学であった。昭和60年頃の沖縄は、米国統治時代から昭和47年の沖縄の日本への復帰から13年経っていたが、米軍基地の存在等の課題はそのまま残っていた。市中では米兵との交通事故等のトラブルも時々あって、私達本土の者に対する沖縄の人の厳しい視線を感じることも少なからずあった。文化や生活習慣が異なり、異国情緒の雰囲気のある沖縄では、見たり聞いたりするものが珍しく、戸惑うこともあったが、本土では味わえない貴重な体験をさせて頂いた。特に印象に残った事柄を挙げてみたい。

ひとつは米国総領事館との関わりである。郷土意識の高い沖縄では、県はもとより琉球大学でも、郷土資料として沖縄関係資料の収集整備を図ることを重点課題として取り組んでいた。米国統治時代以前から交流のあったハワイ大学から沖縄関係の資料を寄贈して頂くことも時々あった。そのような場合には、米国側から総領事が、琉球大学からは学長が臨席して、贈呈式が行われるのが慣例で、その手続等の事務は、浦添市にある米国総領事館を通じて行うことになっていた。そのため資料の寄贈を受けるたびに事務打合せのために、総領事館に出向いたことを今でも鮮明に覚えている。

次は、沖縄の文化や伝統芸能の継承を、県を挙げて取り組まれていることである。市町村レベルで実施されているエイサー、琉球王朝から続く琉球（宮廷）舞踊、宮廷料理等の伝統が世代を超えて継承されている。

なかでも特に印象に残ったのは、旧盆の時期に行われるエイサーである。休日に、ある村を散策中、エイサーの行列に偶然出くわしたことがあった。沿道は見物客で埋まり、そこに先導するように1人の先付けといわれる老人が、徳利を持って泡盛を飲みながら、沿道の指笛に合わせてひょうきんな踊りを飛び跳ねるように踊る様子が滑稽で、思わず笑ってしまった。ほどなくエイサーの本隊、若者達（男女）の隊列が太鼓を鳴らし、「エイサー、エイサー」と掛け声を掛けながら、踊る姿に応えるように沿道から指笛が鳴り響き、素朴な中にも艶やかな雰囲気に、すごく感動したことを思い出させる。

沖縄の伝統の継承と関連するが、伝統の担い手として、各種の名人の存在が知られている。横笛の名人、太鼓の名人、琉球舞踊の名人等で、大学の職員の中にも名人と呼ばれる人がおられ、日々の鍛錬の成果としてイベント等で、自慢の技を披露し、私達も楽しまさせてもらった。異色な名人として、ハブ取り名人がおられる。私が琉球大学在任中に、大学構内でハブに遭遇したことがあった。その時に職員のハブ取り名人が、ハブ取り棒で素早くハブの頭を押さえ、麻の袋に捕獲されるのを見て感動したことが思い出される。

ハブ取りを生業としている名人の場合は遭遇しても小さければ「まだ小さいね。大きくなるまで待ちましょうね。」と言って、捕獲せずに帰宅されると聞いている。専門家によれば、ハブの毒性は小さくても変わらないことだから、名人の対応を聞いてびっくりしたが、Withハブという考え方もあり得るかと自分なりに納得したものである。

大阪大学を出てから、琉球大学を皮切りに、6大学を経て、最後は古巣の阪大に戻り、無事公務員生活を終えることができた。沖縄での経験から学んだことは、他の大学でも十二分に活かされたと思っている。

あれから46年経っても基地問題は進展せず、琉球大学移転後に再建された首里城も火災により焼失したことは、短期間とはいえ沖縄に住まいした者としてかえすがえすも残念でならない。

早い再建を切に願うばかりである。

千石会総会・懇親会もコロナ禍によって、39回～40回と続いて中止になったことは誠に残念でならない。コロナが終息した際には、千石会の40年を大声で祝いたいものである。

松江の思い出

松 本 吉 弘

平成12年4月、初めての管理職として、松江高専に異動することになりましたが、前年夏に契約した枚方市内のマンションの引き渡しが、赴任1週間前の3月25日。

所属していた人事課の総務掛は1年中で最も忙しい時期でもあり、御殿山の宿舎から新居への引っ越しと、松江への荷物の発送が重なり大混乱で家内はパニック状態。周囲の応援も有り、何とか無事に4月1日を迎えることが出来ました。

高専の所属は学生課で、当時、学生のクラブ活動で、対外試合や遠征時の移動に不便をかこっていました。以前からマイクロバス導入の要望があり、校費での購入を経理課にお願いしましたが、あっさり却下されました。新米課長のつらさです。

その後、後援会から寄付申し出があり再度経理課に相談しましたが、再び難色を示され、一時頓挫しかけたのですが、粘り強く交渉し年度末ギリギリで購入できました。

ところが運転手がいない？

公用車の運転手は1名いましたが、マイクロバスの運転はさせない！と総務課長！

その後も八方手を尽くしてなんとか運転手を確保でき、クラブ活動に大いに活用できるようになり、先生方や学生からも喜ばれたことを思いだします。

松江市の観光名所の一つ宍道湖。

宍道湖七珍

ここには宍道湖七珍と言われる、「相撲足腰」「すもうあしこし」と頭文字でいわれる珍味があります。　スズキ、モゲラエビ、ウナギ、アマサギ、シジミ、コイ、シラウオの七つです。

落ち着いた佇まいの松江を、もう一度訪ねて、賞味したいと思っています。

思い出すこと　～四半世紀前の二つの災害～　　郡　司　良　夫

岡山大学附属図書館勤務を振り出しに、図書館業務一筋に携わった34年の間に10回の転勤を経験した。偶然とはいえ大学の規模は大小交互に経験し、また筑波大学、図書館情報大学（後に、筑波大学に統合された）という新構想の二つの大学創設にも関わることができた。そして、公務員生活の後半には大阪大学に二度勤務する機会を与えられ、大変お世話になりました。

大学には多くの部局があり、図書館というのは地味な部局で学内でも話題になることはあまりないと思われているけれど、それでもいくつか記憶に残っていることがある。思い出されることの中から一つ二つ書いてみたい。

それは最初の阪大勤務の折に二つの大きな災害に遭遇したことである。

○集中豪雨による総合図書館の地下水没

一つは、平成6年9月の初めに豊中キャンパスが集中豪雨に見舞われ、附属図書館の事務室が半ば水没したことである。本館事務室の水没だけで書庫や閲覧室の被害を免れたのは、今にして思えば不幸中の幸いであった。図書館は多量の紙資料を保存しているところであり、水による被害は甚大なものとなる。年々収集累積する資料は古くなったからといって廃棄するわけにはいかない。新しい資料のみを保存し提供すればいいというものではないからである。また、被害にあったからといって新しいものを買いなおせば済むというものでもない。

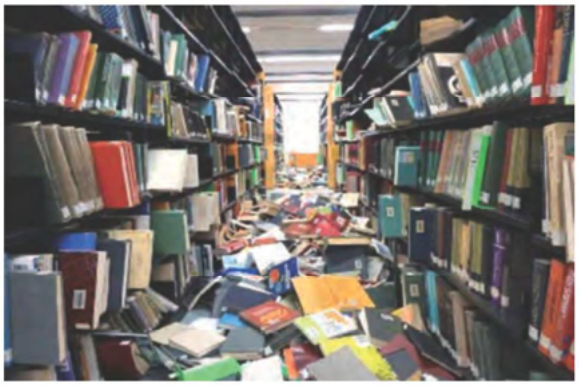
この時は事務室内の書類や受け入れ作業中のものの他に、事務機器類、特にコンピュータ端末機等、多くの備品類がダメージを受けた。復旧には連日職員総出で対応した。日ごろデスクワークをしていた職員は連日肉体労働をすることになった。

ついでに述べると、図書館の閲覧室の下にあった学生食堂は、一段と低くなっていたので、天井近くまで水位が上がっていたため、被害は大きかった。

○阪神淡路大震災による被害

もう一つは、その4か月後の平成7年1月に発生した阪神淡路大震災で、豊中キャンパスだけでなく吹田キャンパスの図書館が大きな被害に遭遇したことである。いずれも滅多に経験できることではなかった。

豊中キャンパスは勿論のこと吹田キャンパスでも大きな被害を受けたことは周知のことであるが、図書館の被害について少し述べてみる。



図書館といえば誰もが想像するように、多くの書架が並びその棚にはぎっしりと本が詰まっている。地震の揺れでそれらの書架が倒れたり歪んで隣の書架に倒れ掛かったり、書架に並べた図書が落下して足の踏み場もない状態になっただけでなく、増築部分に亀裂が入ったりした。

閲覧席近くの低書架は倒れ、窓のガラスが割れ、非常用の外階段も壊れた。事務室内ではキャビネットが倒れ込み、書類は散乱し足の踏み場もないありさまだった。これは本館だけのことではなく、分館・部局図書室でも同じであった。ここでも図書館固有の問題があった。大学図書館では学術雑誌のバックナンバーを製本し大切に保存提供しているが、その量も重量も大変なものである。書架はスチール製で、場所によっては収容力を増すために電動の可動集密書架を導入していたが、地震の揺れで芯が歪み動かなくなった。壁に固定ボルトで止めていたスチール書架はボルトが飛んだり書架どうしが倒れ込んで支えあったりしている状態

で、書架上の製本雑誌を取り出せない状態のところも出た。

この時も日ごろ肉体労働には慣れていない職員が連日復旧のために没頭した。

この二つの災害が発生した時、いずれの場合も発生時刻が図書館の利用者がいない時間帯だったので人的被害が出なかったのは幸いであった。水害の時は、豊中キャンパスの警備員から連絡が入ったのは午前1時半ごろのことで、また、夏季休業中で学生の姿は多くなかったため、復旧作業のために一時図書館を閉館しても影響は少なかった。地震の時は、発生が午前5時46分ということで、この時も図書館は開館しておらず利用者はいなかった。それどころか、交通機関が全滅状態で職員の中でも早朝に家を出たけれど職場に着いたのは夕方近くだったという人もいた。

いずれにしてもこれらの災害が昼日中に発生していたらどれほどの被害が生じたろうかと思うと、背筋に冷たいものが走る。

あれから既に四半世紀が過ぎた。当時、災害復旧に尽力した職員の多くは既に定年を迎えて退職していることだろう。東日本大震災や毎年のように発生する豪雨被害の有様をテレビの映像で目にする度に、当時のことが思い出される。

退職後、縁あって司書養成の手助けを暫くしてきたが、その折にはこの時の経験をもとに必ず図書館と災害について語ることにしていた。受講者達がどの程度実感を持ったかは不明であるが、いくらかは役に立っていることを願っている。

コロナ禍に負けず、元気に頑張りましょう！　　亀 井 保 男

「大阪大学千石会」が、昭和57年に創立され、めでたく40周年を迎えられましたことお祝いいたします。これも歴代役員諸氏のご努力と阪大総務部総務課のご支援の賜物と、会員の一人として感謝申し上げます。本来なら、会員が一堂に会し喜びを分かち合うところ、コロナ禍の影響でそれが叶わないのが本当に残念です。

ご存知のとおり、新型コロナウイルス感染症は、2019年12月に中国武漢市で発生し、瞬く間に世界を巻き込む大問題となりました。当初は、一定期間が過ぎれば流行も落ち着くと楽観視していたのですが、1年半を経ても状況は全く好転しておらず、変異株の影響が加わりむしろ悪化しており、日常生活が制限され、常に緊張を強いられる日々が続くなど、終息にはまだ少し時間を要しそうです。

当方が令和2年4月から勤務している「大阪河﨑リハビリテーション大学」は、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の養成を目的としており、各学年で臨地実習が必須となっているため、緊急事態宣言の発令によって、実習時期の変更、中断、学内実習への切り替え等、何かと苦労を強いられる状況が続いています。

また、コロナ禍は、人と人とのコミュニケーションの在り方にも大きな変化をもたらせましたが、幸いワクチン接種が若い世代へも順次拡大していることから、やがて日常生活が取り戻せる日も来るだろうと期待しています。

どうか会員の皆様方には、元気に再会が果たせる日まで、コロナ禍に負けず元気にお過ごしいただきますよう祈念いたしております。

ウサギと亀井
コロナにもきっと勝つぞ！！

出会いと山行

徳永 壽美子

千石会との出会い

晩秋ともなれば日暮れは早い。事務局本部に席を置き、ようやく仕事にも慣れてきて部局からの報告・確認と対応にバタバタしている時、三々五々、部局の事務長さんや課長、退職したOBたちが入り口から「やあっ」と入ってくる。応接の椅子は足りない。うろうろと仕事中の手元はのぞき込む。こうなると仕事どころではない。〝この忙しい時に何？この人達は〟と内心毒づきながら、それでも頬に笑みを貼りつかせ「今日は何か？」と問う。「千石会ですよ。」これが私の千石会との出会いだった。

なごりの夕陽にわずかに残った本部前の桜の葉が一段と輝きを増すとき記念の写真撮影。参加者は皆、晴れやかで誇らしげな顔々。素敵だった。みていた私も仲間に加わりたい、いや補佐以上の人達の会と聞き、無理と了解。しかし、年一度訪れる先輩方の話は、普段おつきあいのない部局や、仕事の分野を超えた話を聞く機会となり、ずいぶんと勉強になった。また、人間的にも個性豊かで魅力的な方が多く、私の楽しみとなっていった。

そんな雑談の中、山の話をとつとつと話す先輩がいた。これといった趣味も特技もなく、遊びといえば、京都や神戸に食事。山といえば箕面と六甲しか知らない私は異次元の世界の話に引き込まれ、ぜひ同行させてほしいと頼み込んだ。そして、翌年の夏、富士山の次に高い北岳登山が計画された。私にはその前に六甲の登ることが課せられた。車で行ける山に何故？と反論すると、それでは連れて行けないと断られた。言いだしっぺでもあるし、泣く泣く六甲に。バテた！本当にしんどかつた!!でも、その甲斐あって、土曜の午後・仕事を終えそのまま車に分乗し北岳に向かった。本格的な山の経験者は少ないとはいえ、皆快調に歩を進める。山の歩き方を知らない私は半分も登らないうちに足が重くなり、ヨロヨロ。リュックは若い男性が持ってくれ、這うようにしてあえぎながら登った。ようやく山小屋到着。そこに荷を置き山頂をめざし、後15分行くぞ!!の声。応えることも動くこともできなかった。しかし、そんな私に山はご褒美をくれた。翌朝山頂での神々しいご来光、8羽もの 雛を連れた雷鳥、ブロッケン現象、足もとに群れさく可憐な花々、

そして職場では伺い知ることのないほどの自信に満ちた頼もしい顔々！。

それ以来、毎夏六甲で一度汗を流し、大きな山にいくのがならいとなった。そのつど同行の顔ぶれは異なっても、同じ職場の仲間。山を下りれば仕事に追われる身でも山では仕事の話はいっさいでない。子供のように全身で自然を堪能した。下山した直後は、気持ちも寛容になり、イライラもなく疲れさえなくむしろ元気にさえなった。そして、貴重な多くの人と出会いがあった。

忘れ得ぬ登山者

ある夏、友人と八ヶ岳に出かけた。入山して間もなく松葉杖をついた30歳前後の背の高い若者に出会った。リュックを背負っている。単独だ。散歩とも思えない。「お一人ですか？」と声をかけた。青年は一人だと 答え、「昨年までは右膝まで足があった。友人と二人して八ヶ岳最高峰の赤岳山頂をめざしたが、直下の鎖場や梯子が怖くなって断念した。今年はとうとう片足なくしてしまったけれど、どうしても再挑戦したい。」といってユックリ先に行った。骨肉腫に侵され足を切断せざるを得なかったのだろうが、その悔しさ・家族の心配や思いに私達は言葉もなかった。私達は彼よりも下の小屋に泊まり翌日同

じコースを辿りながら、足場の悪い箇所・鎖場・梯子にかかる度に、あの足でどうやってとか松葉杖をどう持ってとか案じるとともに、バテそうになるとあの彼ががんばったのだからと互いに励ましながら二泊三日の山行を無事終えることができた。そして苦しいときいつも彼の姿を思いだす。山には彼ほどではなくてもいろんな人がきている。ガン宣告を受けた人・もらい喫煙で片肺なくした人など枚挙に暇がない。それらであった人を思いだすと仕事のツラさなどなんのことはないと思える。

退職した今も山を歩いている。一緒に歩いている今の友達は私が阪大に勤めていたことを知らない。退職してわかったことは、〝阪大に勤務〟していた人はどうもけむたい存在のようで、一歩距離を置いておつきあいする傾向があるように感じた。したがって、阪大時代と退職後の山友はわけて行動するようになった。遊びの場で余計な気づかいは敬遠したい。

人は身体もその人が食べたもので形成され、性格や考え・行動もその人の育った環境や感性によって培われるという。私も成長過程で多くの人から得がたい経験や知識をえた以上に、自然から多くの学びを得た。このきっかけの一つは千石会の先輩方との出会いである。

また、退職後多くの友人・知己を得たのも自分を枠の中に閉じ込めないことを学んだおかげと思う。

これからも恥をかいてもいい、自分の周りを大きく広げ・好奇心一杯にして、一歩足を踏みだす勇気こそ大事にしたいと思っている。

阪大在職中の三つの出来事と退職後のこと　　岩 國 健 一

昭和 34年10月医学部附属病院医事課に採用になり学生部留学生課で定年退職するまで奈良高専をはさんで約42年間大阪大学でお世話になりました。この度の創立40周年記念誌発刊に際し、私なりに在職中の三つの出来事について記憶をたどってみたい。

一つ目　医学部附属病院在職中、昭和36年9月の第二室戸台風による堂島川の氾濫があり病院地下天井まで浸水する被害に遭いました。

二つ目　事務局庶務課教務掛在職中、昭和43年5月～44年12月大学紛争がありました。一時は、事務局職員が建物を逆封鎖し交替で24時間建物を防衛しました。その後、危険を避けるため建物内から全員退避しましたが直後に学生により事務局建物が占拠されました。

三つ目　庶務課教務掛入試事務担当時に試験問題の漏洩事件がありました。最初は、教務掛員からの漏洩が疑われたと思います。その後、当時印刷を依頼していた刑務所の受刑者からの漏洩が発覚し事件は解決しました。

退職後は、夫婦で千早赤阪村の金剛山登山を始め1年間で100回達成しましたが、妻が他界し一人で登山をする気力がなくなり止めてしまいました。

その後、一人でも参加できる球技大会やマラソン等のスポーツボランティアに出会い参加することにした。コロナ禍で一時各種イベントが中断されていたが、最近再開の兆しがあり、また参加するようになりました。今後も健康維持のため続けたいと思っています。

想いで深い話と夢の話を語る　　長谷川 昭次郎

この度創立40周年を迎えられましたことは、誠にめでたく心からお祝い申し上げます。

また創設に当たり、ご尽力くだった先輩の方々に、心からお礼を申し上げます。

私も賛助会員から正会員になって今日まで、ともに40年を歩み生き長らえてきたことは本当に有り難いことだと喜んでおります。

ポストに千石会の手紙を見た時は、懐かしい故郷の便りが来たと嬉しくなって、早速会員の近況報告を見るのです。親しかった方の名前を見てお元気であれば安堵し、訃報を知るとその方とのことが急に蘇り、楽しかった当時を想い出されるのです。

私が会長の時に、総会が終り手洗いを済ませて廊下に出ると、そこに千石会創設の発起人でも あった田中喜彦元事務局長がおられて、杖を突いて歩こうとされていたので、そっと右手を差しだすと、その手をしっかり握られたのです。その手がなんとも温かく、その温もりが全身を駆け巡ったので吃驚。ただ一言「もう帰る」と言われたので暫らくご一緒して、出口で待っておられた娘さんが、「後は私が」と言われたのでその手を引き継いだ。安心した様子で帰られる二人の後ろ姿がまた微笑ましく、強く印象に残りました。

それが千石会に来られた最後となり、お見掛けするのも最後になるとは誠に不思議なご縁であり、その温もりが家に帰っても残り、昔のことを懐かしく想い出したのです。

私は若い頃、自分の不摂生から肺結核を患い長期療養と休職になった。その後手術の経過良く回復して昭和29年1月に復職した時、挨拶で初めてお会いしたのが田中喜彦庶務課長であった。「復職しても無理はしないように、体を労わりなさい」と優しく言ってくださり、勤務中に病院に行くことや、長く座って疲れると宿直室で横になることも黙認してもらえたのです。また庶務課の皆さんにもお世話を掛けて、本当に有り難いことでした。

仕事は庶務掛に替って慣れてきた頃、公務員制度の事業も軌道に乗って、職員の厚生・研修等に目を向けられるようになり、文部省や人事院の講習会があると参加させてもらえた。また学内でも実務研修が事務局各課の主催で行われていた。

一方部局の新設拡充に伴い事務職員が増えてきたので、新規採用事務職員の研修が実施されることになり私も手伝い、職員掛ができて担当することになった時には、私が以前から知りたかったタコ足大学のキャンパスの全貌と、新しい研究施設・設備や大学でしか見られないものを見学に追加したいと考え、関係部局の掛長と事前に相談し協力を取り付け、講義内容・講師・時間割等の研修計画を池田正信庶務課長補佐と相談して、田中庶務課長に説明し、見学はこの機会に是非にと補足した。課長は一考されて「面白そうだね、やってみなさい」と、スクールバスの使用まで許可してもらえて、本当に有り難かった。そして見学した中で、理学部の原子力実験施設、工学部ではブラウン管を部屋一杯に積み上げた大型計算機開発初期の研究室、大風洞、船舶模型を浮かべた大水槽、医学部では法医学教室の人間の骨格・内臓等の特殊な病的標本、微生物病研究所では資料として集めたバケツに蠢く回虫（これにはさすがに悲鳴がでた）、などが特に強く印象に残った。

初任者研修
４月〇日
1. 組織について
2. 公務員法解説
● 学内施設見学

間もなく一般教養部北校，蛋白質研究所、歯学部を異動して、41年6月に庶務課に移った時には、既に田中事務局長がおられて再会した。

大学紛争

それから2年後に勃発したのが全国に波及した大学紛争である。本学では昭和43年の大阪空港米軍使用反対デモから始まり、一般教養部北校が全学連の拠点として占拠され44年11月の終息までに、文科系学部に続いて薬学部、工学部学科の一部建物まで彼ら暴徒に封鎖され、研究・授業・事務に至るまで大きな被害を受けたのである。そしてこれらの対処に説得・交渉等種々の手段を取られたが、全学連内の主導権抗争と政治問題などが絡んで解決の目途が立たず、大学首脳陣の心労と関係部局の教官、事務職員のご苦労は並大抵のこと

ではなかったのです。

政府が見かねて「大学の運営に関する臨時措置法」を国会で成立させ、12月までに紛争が終結しなければ大学が一時閉鎖されることになった。本学の首脳陣もこれに応じて封鎖解除を決意。
11月16日に大阪府警機動隊を導入して封鎖を解除された。この時には関係学部の教官・事務職員それに事務局職員まで協力して、この処理に活躍されたのです。

また44年3月には、44年度の入学試験が強行実施され、機動隊の協力で一時封鎖を解除し、キャンパスも警備のもとで無事試験が行われた。この時も暴徒によって教室が破損され試験場が不足したので、入試委員の先生方が奔走されて他大学の教室を借用された。一方本部松下会館も暴徒の妨害を危惧されて、問題紙の保管場所・答案の採点室、答案紙の保管場所等については、田中事務局長が熟慮されて、某銀行の金庫と会議室、某レストランの食堂（昼間）と個室を懇請されて借用。庶務課職員総出で警備や世話をさせ、また答案紙の保管場所には宿直を置くなど気苦労と処置をされたのです。これらのことを回想していると、その時活躍された上司先どうしておられるのだろうかと想う。

天国会の創設

フッと、そうだ「天国会」を創設されて中秋名月の日に輝く月に集まり、天の川の水で乾杯し酔い潰れることなく、昔話に興じ、新人からは下界の近況を聞いて、月を眺める我々に「新型コロナウイルスに！頑張れ!!」と、エールを送ってくださっているのかもしれない。「昇天すれば天国会があるから心配するな！」とまで言われているように思えるのです。夢のような話ですが、私はそう信じたい。（私のご先祖も家族会で迎えてくださることですから）

「千石会」「天国会」万歳

2021年の夏　　植西　亮

この夏、この歳？で 前から痛めていた股関節の 手術をした。医師から 手術をすれば95％治ると言われその一言で 手術に踏み切ったが 4週間の入院生活は長かった。

コロナの影響で家族の見舞いもかなわず、テレビで高校野球を見るしかない。ところが今夏は記録的な大雨が続き、好きな高校野球の実況も影響を受け、タイトな日程で行われていたが8月ぎりぎりで優勝校が決まったのでまずは良かった。

一方、最大の懸案事項であるコロナ禍対策は政府の対策が悪いのか収まるどころか出口が見えない状況で患者は増え続けていた。ワクチン接種はすでに受けていたが高齢でもあり密集地へ出向くことも無い。枚方市では 介護サービスの一環として 65歳以上の 健常者の集いの 麻雀、囲碁 絵手紙 などのサークル活動があり私も参加している。もちろん絵手紙ではないが・・・ところがコロナの影響で 中止が続き 人との会話がほとんどなく 失語症にならないか心配している。股関節の経過もよくリハビリに努め回復に向かっている。 枚方の仲間とも美味い酒を酌み交わしたいものだ。

淡路特別の思い出　　藤　井　　博

千石会創立４０周年おめでとうございます。諸先輩の努力があったお陰です。

採用された頃

私が大阪大学に採用されたのは昭和44年5月でした。昭和47年に吹田地区に大型計算機センターが新築され、事務組織も大きくなり掛も増えました。共同利用掛長として異動されてこらたのが岩國さんでした。

原議書

岩國さんは私たち技官に原議書の書き方、公文書の書き方など基本的なことを教えてくださいました。当時は大学紛争の影響で新任研修もなく採用されて誰も教えてもらえなかったので、そんな事柄が非常に新鮮に感じました。また、趣味も無かった私に魚釣り一緒に行かないかと誘って頂きました。とても嬉しかったのを覚えています。

いざ淡路島へ

当時の土曜日は午前中だけの半ドンでしたのでウキウキと仕事を終わらせ、昼食後自家用車に分乗して淡路島に向かいます。西宮まで国道171号、武庫川堤防と走り西宮です。途中で各自狙いの魚に合わせて餌を買います。「青イソメ」、「石ゴカイ」は1パック500円だったかな。「マムシ(真虫)」は高くて1000円だったような気がします。もちろん弁当、ビール、おつまみも調達します。

フェリーは西宮から淡路島志筑港（後の津名港）まで２時間で結んでいましたが明石大橋が開通し利用者が激減して平成10年8月に廃止された。

初めて乗るフェリーは大きな船だった印象があります。乗船し大広間に陣取り、早速酒盛りが始まります。(もちろん運転手は禁酒)どのような魚を狙うか、仕掛けは何かと話が弾みます。志筑港に到着する前に自動車甲板で車に分乗して接岸を待ちます。フェリーが着岸しゲートが開くと順番に車が出発します。目的地はすぐそばの大きな波止場の駐車場です。広場に駐車し、クーラーボックス、竿を持って波止場先端のポイントを目指して歩きます。

波止場の外側は大阪湾に面し大きなテトラポットが積み重なっています。内側は港内で垂直に切り立っています。目的のポイントに到着するとテトラポットの上を歩いて釣座に向かいます。初心者の私は内側に陣取ります。もう夕暮れが近く薄暗いです。投げ釣りの準備をして釣り針に餌を刺します。餌の「青イソメ」はミミズのようですが口に一対牙があり、牙を剥いて必死に抵抗します。準備ができると竿を大きく振って、重りと仕掛けを飛ばすのですが、タイミングよくリールを解除しないと釣り糸が出て行かず手前にドボンです。慣れていないので遠くに飛ばすことができません。魚が集まる場所は海底に変化のある場所で海底が砂の場合、砂山になっている所などです。近くではあまり魚はいないのです。

それでもガッチョ(メゴチ)が2、3匹釣れました。ガッチョは全体にぬめりとエラの近くにはトゲがあります。ちょっとクセがありますが天ぷらにすると美味しいです。午後8時を過ぎるとあたりは真っ暗で、対岸の灯りが幻想的で綺麗です。ヘッドライトの灯りを頼りに、他の参加の釣果を見て回ります。テトラポット外側で釣りをしている人は投げ釣りやウキなど釣り方は様々でした。テトラポットが魚礁となっているので魚影が濃いので色々な魚が釣れています。キス、カレイ、ガッチョ、ウミタナゴ、ガシラ、クロダイ、チャリコなどが釣れています。大きなアナゴを釣っている人もいます。深夜になると防波堤でごろ寝です。夜通し釣る人、明け方まで寝る人まちまちですが、私は眠くなって防波堤で寝てしまいました。

また、こんな事もありました。投げ釣りは竿を大きく振り回して遠くに飛ばします。この投げ釣りをし

ている人の後ろに人がいれば、釣り針が引っかかってしまうので注意が必要です。まさにこのような状態があったのです。参加者の耳たぶに針がかかってしまったのです。釣り針は魚が逃げないように返しがあります。このままでは針は抜けません。その時、ある先輩が「大丈夫や」と、ペンチで釣り針を切って抜き、傷口をウイスキーで洗い、その後にタバコの葉を揉んで擦りつけ、バントエイドを貼りました。きっと針の刺さった参加者は痛みで何をされているかわからなかったと思います。その応急処置にびっくりしたのですが、ウイスキーでアルコール消毒、ニコチンで血管を収縮させ止血と理にかなった処置と後から知りました。

一夜が開けると釣果を持ち寄り、異種2匹の長寸で競います。長物（アナゴ、うなぎなど）は除外です。キスの大物を釣れば上位確実ですがウミタナゴのような平たい魚は不利です。大きなアナゴを釣った方もいますが残念ながら除外です。結局、大きなキスとカレイを釣った方が優勝でした。私は小さなメゴチとキスでしたが飛び賞の帽子を頂いて嬉しかったです。

帰りは淡路島志筑港から西宮まで2時間、船内では皆さんぐっすり熟睡でした。

４０年史の寄稿を考えているときに楽しかった「淡路特別」を思い出しました。

千石会が４５周年、５０周年と末長く続くことを祈ってます。

「千石会」命名の隠された意　　奥 平 正 昭

ご存知ですか この同窓会を 千石会と命名された経緯は多くの方々も推測できるでしょうが なかには「吹豊会」でもと思われる方もおられるのではないでしょうか 40数年前で 私が現役の頃、この千石会を発起された先輩から聞いた話ですが、当時は皆様もご承知のとおり、今の吹田キャンパス・豊中キャンパスは、千里キャンパス・石橋キャンパスが通称でした。この頃に事務系同窓会が設立され、千里キャンパスの千」と「石橋キャンパスの石」で「千石会」と命名されたそうです。

これだけならごく普通の発想ですが 隠された意は、千石会の「千」は長く苦楽を共にして勤め上げた退職者が 千人にも及ぶだろうと思われる多くの仲間、そして「石」は退職後も 石のように強く堅く永く交流していこうとの思いを込めてと聞きました。年月の経つのは早いもので この先輩諸氏も 黄泉の国へ旅立たれ、真偽の程は確かめられませんが、今後も引き続き結成された方々の思いを継承し、より発展させたいものです。

そういえば
こんな考えも
ありましたなー

千

石

阪大学生部 －たかが4年・されど4年－　　三 浦 永 司

初めての阪大学生部は、昭和から新元号になった平成元年4月で、新幹線で新横浜から家族全員での赴任でした。もう30年も前のことです。
大阪で初めての生活でしたので、当時、嫁さんは大阪弁が外国語のようだと言ってましたが、子供たち3人慣れたようです。

新米課長の初めての職場は、厚生課でした。4月3日に城戸さんが、新大阪駅のホームまで出迎えて下さり、小学2年の長男の手を引いて階段を降りる2人の後姿が今でも印象深く残っています。

その日は、待兼山会館に泊まり、翌日は西緑ヶ丘の阪大宿舎に案内していただきました。

豊中キャンパスではこの時期、桜が満開で毎年お花見をしたものです。我が家には車が無く、箕面の大滝、吹田キャンパスやエキスポランド等に良くサイクリングに出かけました。（今でも夫婦で運転免許証を持っていないので、昨今の免許証の返納問題は、まったく心配ありません。）

当時の学生部長は、俣野先生（人科）と松岡先生（法）で、大学での自由な議論の仕方等いろいろ教えていただきました。

「和具・海の家」は子供たちのお気に入りの場所で、毎年越賀さんご夫婦にお世話になりました。

思わぬ入院

1年目の秋に「原因不明の高熱」で宿舎近くの病院に1か月程入院してしまい、皆さんに大変ご迷惑をおかけしたこともありました。退院の際に主治医の副院長から「入院中に、阪大のいろいろな方から電話をいただきましたがあなたはどうゆう人なんですか？」と聞かれ、改めて皆さんにご心配いただいたことに気付かされました。この時の診断書は今もありますが、古希を過ぎた人生の中で、入院したのはこの時だけです。ようやく大阪の生活に慣れてきた時期に、20年弱の本省勤務の疲れが出てきたのだろうと思っています。

厚生課は僅か1年3ヶ月で、隣の学生課に異動となってしまいましたが、これも1年9ヶ月でした。

学生課の時、課外活動中の事故がありました。合気道部の新入生が練習中に頭を強打し、入院された病院に補佐と一緒に毎日お見舞いに伺いましたが、救命救急センターでの懸命な治療の甲斐も無く残念な結果となってしまいました。その後、三回忌の際に東京から、四日市のご自宅に弔問させていただきました。当時の合気道部の主務の方とは、いまでも年賀状の交換をしています。

この他にも、大学の学生部担当で関わった、東大スキー山岳部の方が剱岳での春山合宿中の滑落死亡事故がありました。当時のそれぞれのご両親の姿は、今でも忘れられません。

2度目の阪大勤務

2度目の阪大は約10年後の平成12年4月で、学生部長としての赴任でしたが、初めての単身赴任でした。早速、石橋駅前の居酒屋で応援団の歓迎会があり、びっくりやら感激やらのスタートとなりました。この年は、応援団の創部40周年に当たり、豊中市民会館で演舞会や式典があり、「碧青」の大団旗の下、団員達の熱い思いが伝わってきたものです。

このときも僅か1年3か月で仙台への転任となってしまいました。また事務局棟の裏庭で、応援団が送別の「エール」を送ってくれました。
この2度の勤務の間、ちょうど阪大の「60周年」と「70周年」の節目に立ち会うことができました。

また、職員の野球チームにも参加させてもらいましたが、打率「0割0分0厘」の記録保持者でもあります。

私の役人人生は、文部省と6大学での40年間でしたが、そのなかでも阪大学生部での2度の勤務は、通算で僅か4年間でしたが、初めて管理職の職場だったこと、また同じ大学で2度の勤務という稀な機会に恵まれたということもあり、私にとって

は最も想い出深いものとなっています。
　改めて、お世話になったすべての皆様方に御礼を申し上げます。

　千石会には当時一緒に仕事をした平さんが会長のうちには・・・・古希を迎えたら等と考えながらもついつい参加出来ずに来てしまいました。
　最近はコロナ禍のため、残念ながら毎週日曜日の合唱団の練習もできない状況が続き、毎年開いていた定期演奏会の見通しも立っていないのが残念です。

　早くコロナ禍が終息して再開された千石会には出席し、是非応援団に教わった「学生歌」を久しぶりに歌ってみたいと密かに楽しみにしています。

大阪大学学生歌

立山澄夫　作詞　吉本昌裕　作曲

一、生駒の嶺に　朝影さして
　緑風さやけき　銀杏の木蔭
　若きいのちは　力あふれて
　歌ぞおほらに　望みはるけし
　叡智の泉　掬みてつきせず
　ほこりあり　真理の岡べ
二、浪速の浦に　夕潮みちて
　葦間にこもる　遠きうつし世
　古きいさをは　今につたえて
　讃えよ明日の　栄えはてなし
　思索の小径（こみち）　もとめてやまず
　ほまれあり　自由の岸べ

千葉・北総の田舎から、皆様方のご健勝と千石会・大阪大学のますますのご発展を心からお祈りいたしております。

ひとり旅

中尾仁三

　一人暮らしになって8年余り、好きなドライブで、名だたる幹線道路は、ほぼ完走しました。どこへ行っても災害日本のイメージが強く、行く先は自然と神社仏閣が多くなってきました。2020年も暑い中、山口・大分・東阿蘇へ災害祈願祈祷に行きました。過去に強く印象に残っているドライブは、熊本地震の2週間前3月下旬の桜前線です。
日本の原風景を観ながら人吉温泉へ。途中で五木村へ寄り道、そこで九州一の治水ダム建設が頓挫したことを知る。今も余震が酷く、そこへ氾濫とは熊本は大変だ。

コロナ禍で「大分ﾄﾞﾗｲﾌﾞから、3回のﾂｱｰ旅行をｷｬﾝｾﾙしﾄﾞﾗｲﾌﾞは日帰りばかりでしたが、10月下旬の奄美大島ﾂｱｰから旅を再開しました。体調は大腸ｶﾒﾗから夏ﾊﾞﾃ何と言ってもﾜｸﾁﾝ接種は堪えた。39.2度の高熱。熱が下がっても喉を通らず三食に戻ったのは一ヶ月後、この間、家籠りでした。もう一つ、免許証更新手続きの煩雑さ。最終手段は茨木警察のｵﾝﾗｲﾝ予約を見て「ｶﾞｯｶﾘ」予約日が期間越え「ﾊﾞｶな」署へお越しいただき有効期間延長をしてください「あほな」
いよいよﾄﾞﾗｲﾌﾞ再開、よかった。災害大国、日本は、コロナに負けないぞ」

千石会　創立４０周年その長い歴史を川柳で

辻　仁

創立から現在までの思い出

創立は何と昭和の時代です　(有志が集まり開始昭和５６年)
退職後忘れられまいとの思い　(退職者を忘れられるのは淋しい)
退職後終生交流親睦を　(何とか連帯組織を作ろうやないか)
志(こころざし)ある者集まり話合い　(昭和 56 年春頃から話合い始め)
創立の世話人全部で 15 人　(56 年 9 月医学部会議室に集まり)

千石会名前の由来地域名　(吹田地区・千里 豊中地区・石橋)
会員の資格は勤続年数で　(勤続 20 年以上の退職者とする)
創立時会員全部で 78　(賛助会員も 78 名と記録にあり)
第一回総会参加者 41　(会員の半数以上が参加した)
千円の会費で一年資格あり　(安いと思うか高いと思うか?)

3 年を越して不明者通知止め　(中々お返事ない方仕方なく)
3 年間会費未納者除籍する　(任意退会？名簿から落とす)
総会の土曜開催変更す　(週休二日制となり、金曜日に)
時代ですHPがスタートし　(楠本、藤井両氏のご尽力による)
当局のお世話無ければ続かぬ会　(大学当局のご支援無けれ出来ない)

一番のお世話本部の総務部さん　(全くその通り感謝感謝です)
会員減人口減と同調か　(日本の人口減がここにも影響か?)
会員に入って欲しい女性軍　(会員１割に満たない女性軍、残念)
外大と統合会員増期待　(正直言って無理だったかな?)
大震災千石会も募金出し　(大阪大学未来基金３０万円寄付)
40 年アッと言う間に過ぎました　(長い様で短い４０年、どこまで続く？？)

千石会　創立４０周年その長い歴史を川柳で

辻　仁

総会・懇親会の思い出

一年に一度の総会楽しみで　(平素の無沙汰を詫びる機会)
今年又来れた幸せ神に礼　(神に感謝の思いしかない)
や~や~と握手しながら名が出てこん　(記憶力減退、これが悩み)
そりゃそうとあんたあの頃何処にいた?　(齢とるとこれが困りもの)
何時もだが顔と名前が一致せず　(別れて遠いから仕方がない)
会いたいと思ってた人欠席だ~　(これが一番残念なこと)
誰だっけ?そっと名札を盗み見す　(失礼だがこれも仕方がない)
最高の高齢参加者川島さん　(９２歳でのご参加万歳)
総会中気持ちはずっと懇親会　(早い事楽しく飲みたいな～)
懇親会一番楽しみ福引だ~　(今年は何が当たるかな？)
懇親会何と総長お出ましに　(平ノ上会長のご手配)
総長と盃(さかずき)交わす光栄に　(中々無いチャンスだ～)
総長の事務職礼賛感動す　(西尾総長　感謝感謝です)
大学の応援団も出てくれた　(応援団のお嬢さん　感謝)
福引を毎年当てる強運者　(さあ今年は何が当たるかな)
役員のご苦労皆さん判ってね　(ほんと　大変なんですよ)
大学のお世話無ければ開けぬ会　(ほんと　これが一番です)
現役の方々ご参加有難う　(これも有難いことですね)
帰り道話せず別れた人想う　(心残り、また来年に会うか)
二次会を避け帰る道足重く　(都合付かず、残念な思い)
もうこれが最後かな~とつい思う　(高齢とともについ思う)
いや絶対又来るんだと帰り道　(悲しい励ましの言葉)

千石会　創立４０周年その長い歴史を川柳で

辻　仁

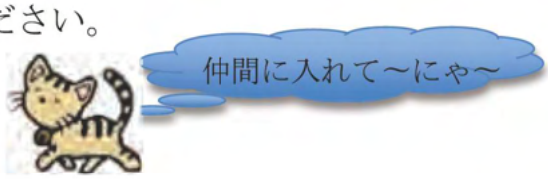
千石会を支えて来た方々の思い出

昭和から平成~令和と 40 年　(長いようで、アッと言う間)
スタートの発起人数 15 名　(多くの方々のご苦労に感謝)
協議員最初の頃は十数名　(規則では若干名となっている)
これまでの会長経験 12 名　(案外少ないと思うが)
総会の最高齢参加川島さん　(最後のご参加９２歳でした)
会員の最高齢者長谷川さん　(現在９４歳というご高齢)
初めての女性会長石川さん　(後にも先にも石川さんだけ)
会員の最北端は北海道　(渡瀬さん　北海道網走です)
会員の最南端は鹿児島市　(有川さん　鹿児島市です)
女性軍お願いもっと参加して　(昔、調べたら全体の７％で)
役員は誰でもなれる千石会　(在職中の役職など無関係)
現役の皆さんご支援有難う　(これからもどうかよろしく)
総務部のお世話無くては出来ぬ会　(大学当局のご支援に感謝)
役員の皆さん本当にありがとう　(感謝感謝の思いばかりです)

◎ 今後の千石会の発展を祈って一首

千石会長い歴史に支えられこれからも先も続けと祈る！

これまで千石会ホームページに約１５０首程の川柳らしきものを掲載いただきましたが、その中から千石会に関係するものを改めて寄稿いたしました。項目によっては重複するものがありますがご寛容ください。



仁

大阪大学の変遷（中目次）

懐かしの旧キャンパス
　中之島① 大阪大学発祥の地 ・・・５６
　中之島② 医学部・附属病院・理学部 ・・・５７
　中之島③ 歯学部・微研・蛋研 ・・・５８
　中之島④ 事務局（松下会館）・講堂・中之島分館 ・・・５９
　大阪市都島区東野田・枚方市（工学部） ・・・６０
　堺市（産業科学研究所）・豊中市蛍池（薬学部） ・・・６１
豊中キャンパスの発展
　旧教養部 ・・・６２
　文科系学部・附属図書館 ・・・６３
　基礎工学部・理学部 ・・・６４
　医短・言文・健体・国際公共など ・・・６５
吹田キャンパスの誕生
　万博会場と吹田キャンパス全景 ・・・６６
　微研・産研・工学部・蛋研・核物・大計 ・・・６７
　電顕・図吹田分館・溶研・人科・薬・社研 ・・・６８
　事務局・レーザー・医学部・附属病院・生命科学分館 ・・・６９
大阪大学と大阪外国語大学が統合 ・・・７０
吹田キャンパスの現在
　大学院・学部 ・・・７２
　図書館・研究所・全国共同利用施設 ・・・７３
　全国共同利利用センター・附属病院・世界拠点 ・・・７４
　大学本部等・吹田キャンパス全景 ・・・７５
豊中キャンパスの現在
　大学院・学部 ・・・７６
　全学教育推進機構・総合図書館・サイバー・低温 ・・・７７
　総合学術博物館・文理融合型研究棟 ・・・７８
　阪大会館・グラウンド・豊中キャンパス全景 ・・・７９
箕面新キャンパス開学 ・・・８０
中之島キャンパスの再開発事業 ・・・８２
キャンパスあれこれ ・・・８３

懐かしの旧キャンパス　　中之島 ①　　大阪大学発祥の地

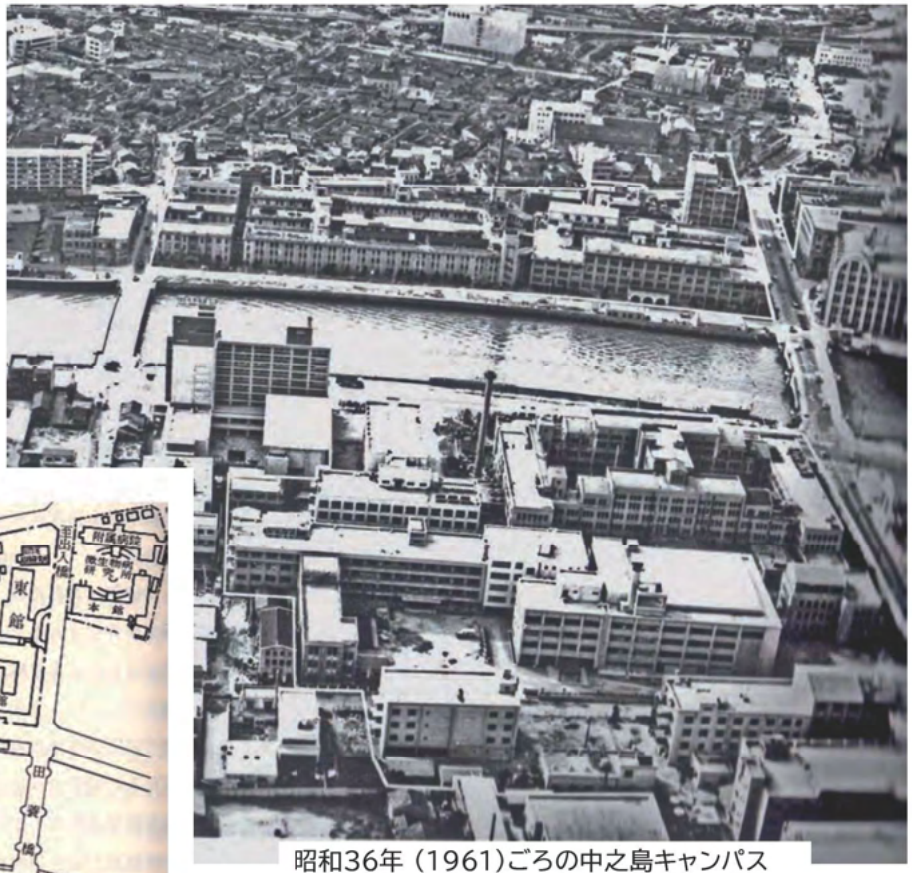
大阪大学発祥の地 中之島

今から90年前の1931年、大阪大学は、中ノ島の地に6番目の帝国大学として、大阪府立医科大学を母体に医学部と理学部の2学部で誕生しました。

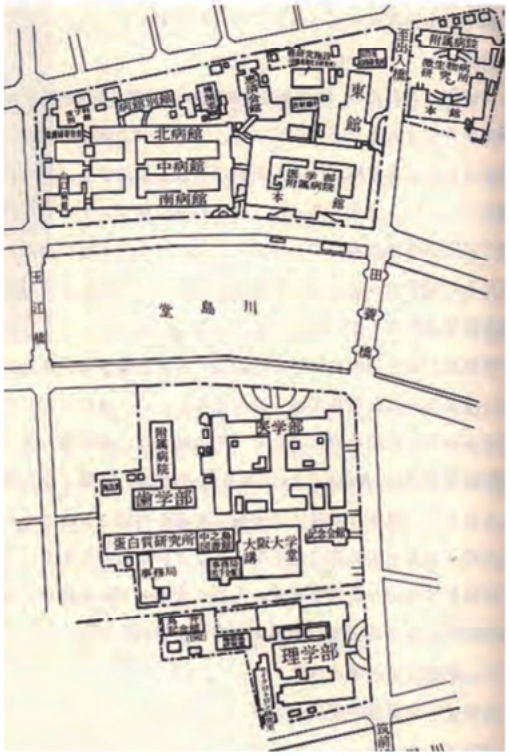
当時、東京をしのぐ大都市であった大阪に「総合大学を」という声が民間からあがり、大阪の人々の希望と関西財界の熱い援助によって創設されたのであった。

まさに「地域に生きる」大学である。

しかし、1993年の医学部・同附属病院の吹田キャンパス移転を最後に、中之島から大阪大学の姿が消えました。現在は、その跡地に大阪大学中之島センターが建っています。



昭和36年（1961）ごろの中之島キャンパス



（参考までに）講堂がない頃の中之島地区
（左　理学部　右　医学部記念会館

懐かしの旧キャンパス　中之島 ②　（医学部・同附属病院・理学部）

医 学 部

昭和　6年(1931)　大阪帝国大学の設置
　　大阪医科大学はその医学部となった。
昭和22年(1947)大阪大学医学部と改称
平成　5年(1993)吹田キャンパスに移転

医学部　　中之島

医学部附属病院

昭和　6年(1931)　医学部附属医院
昭和24年(1949)　附属医院を附属病院と改称
昭和39年～48年(1964～1973)
　　第2室戸台風による甚大な被害と老朽化した建物に対応し、病棟改築工事完成
平成5年(1993)　吹田キャンパスに移転

昭和48年頃の改築した医学部附属病院
病棟の幅は250メートルもありました

理 学 部

昭和6年(1931) 大阪帝国大学理学部設置
昭和9年(1934)3月　**建物竣工**
　　それまでは医学部、塩見理化学研究所等を借用していた。
　　総長室、事務局長室、事務局も学部内に入居した。(1951年8月まで)
昭和41年(1966)　第2室戸台風による被害が甚大で、豊中キャンパスに移転した。

理学部　　中之島

懐かしの旧キャンパス　中之島 ③　（歯学部・微 研・蛋 研 ）

歯 学 部

昭和25年(1950)
　　医学部歯学科設置
昭和26年(1951)
　　医学部歯学科が歯学部として独立
昭和58年(1983)
　　吹田キャンパスに移転

微生物病研究所・同附属病院

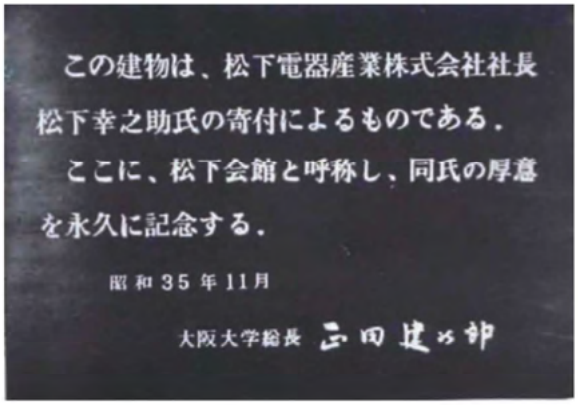
昭和９年(1934)
　　大阪帝国大学で最初の付置研究所として発足。
　　(山口玄洞からの寄付により北区堂島に研究所竣工)
昭和45年(1970)
　　吹田キャンパス統合計画の第一陣として移転

たんぱく質研究所

昭和33年(1958)
　　理学部附属たんぱく質研究施設設置
昭和35年(1960)
　　たんぱく質研究所を設置。(全国共同利用)
昭和38年(1963)
　　中之島に本館竣工
昭和46年(1971)
　　吹田キャンパスに移転

懐かしの旧キャンパス　中之島 ④　（事務局（松下会館）・講堂・中之島分館）・

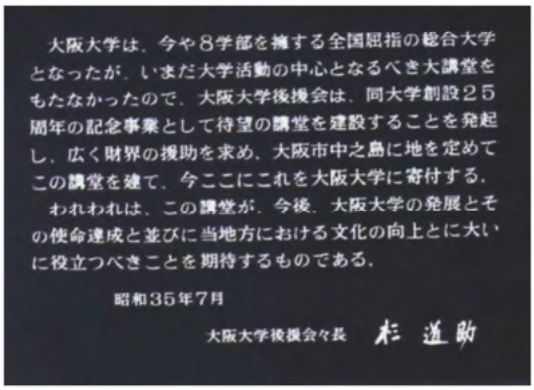
事務局（松下会館）



昭和35年(1960)11月松下幸之助氏の寄付により松下会館が竣工

それまで事務局本館（大阪市の中之島小学校の建物を借用）等にあった総長室、事務局長室、各部長室、庶務課、経理課及び医学部記念館にあった人事課等が松下会館の事務局に移転し、主計課及び経理課の一部等が引き続き事務局本館に置かれた。
1966年事務局本館にあった学生部が豊中地区の木造A棟に移転した後、歯学部内にあった施設部が事務局本館に移転した。

講　堂



昭和35年(1960)に旧医専跡に大阪大学後援会の寄付により講堂が竣工

入学式、卒業式等の他、開放講座等で昭和55年(1980)に事務局が吹田地区に移転後も使用された。

附属図書館
中之島分館

昭和35年(1960)　附属図書館中之島分館が竣工

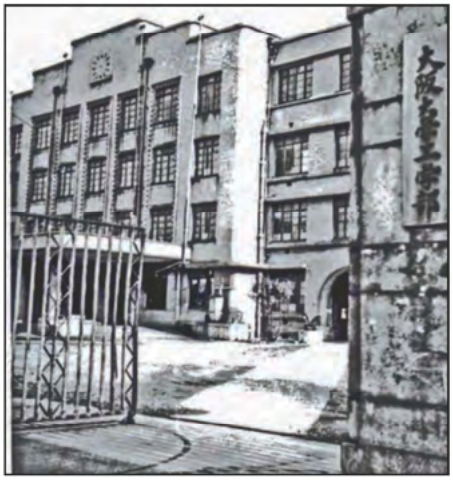
平成3年(1991)吹田地区に移転

閲覧室正面額は初代総長・長岡半太郎書の
「糟粕を嘗むる勿れ」

懐かしの旧キャンパス　　大阪市都島区東野田・枚方市（工学部）

工学部（都島区東野田）

昭和 8年(1933) 大阪工業学校(1896年)として設立された歴史ある大阪工業大学が大阪帝国大学に編入、工学部として 設置された。
（第二次世界大戦で校舎の大部分を焼失した）
昭和22年(1947)に大阪大学工学部に名称を変更、
昭和24年(1949)には新制大学のもとに再スタートを切り、以降、組織や施設の拡充を行った。
昭和45年(1970)に、吹田キャンパスに移転を完了した。



昭和40年頃の東野田の工学部

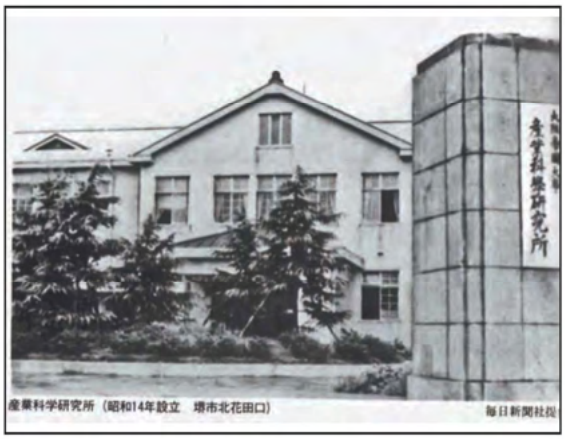
工学部枚方学舎・・・（枚方に学舎があったことは、もう誰も記憶にないでしょうね？）

1946年に、戦争による空襲で東野田の工学部校舎が焼失したため移転してきた。
場所は現在、関西外国語大学御殿山学舎がある付近で、陸軍造兵廠の砲弾等を作ってた施設「枚方製造所」の跡地でした。その後、1967年に枚方学舎は移転のため閉鎖された。

懐かしの旧キャンパス　　堺市(産業科学研究所 ・ 豊中市蛍池(薬学部)

産業科学研究所（堺市）

昭和14年（1939）大阪帝国大学産業科学研究所創立　関西に地盤を持つ企業の寄付により建物を堺市東郊に新築
昭和22年（1947）大阪大学附置産業科学研究所となる
昭和26年（1951）大阪大学附置音響科学研究所を統合（枚方分室として昭和43年3月まで枚方市に存続）
昭和43年（1968）大阪大学統合計画に基づき吹田キャンパスへ移転



堺市にあった産業科学研究所
（木村　宏さん提供）

薬 学 部（豊中市蛍池）

昭和24年5月(1949　医学部薬学科として発足
昭和25年　　(1950）豊中氏蛍池にあった旧薬学専門学校の施設が大阪大学に寄付され、医学部 薬学科が使用した
昭和30年7月(1955）旧帝大最初の薬学部として医学部より分離独立
昭和50年4月(1975）学舎を豊中市蛍ヶ池から吹田キャンパスへ移転

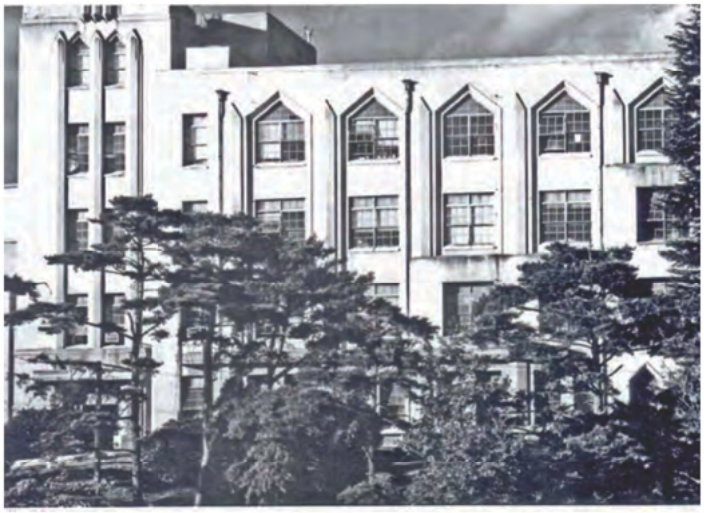
薬学部　刀根山時代(1949～1975)
初期の校舎　木造棟が多かった

昭和40年　新館竣工なった薬学部
手前の池はその後埋め立てられた

豊中キャンパスの発展　①　旧教養部～

豊中キャンパスの歴史は、待兼山の大阪医科大学予科校舎に始まり、昭和24年(1949)新制大阪大学発足の際、旧制の大阪府立浪速高等学校を合併し、一般教養部北校となり現在のキャンパスの土台となっています

阪大坂から石橋門



一般教養部北校本館

この建物は、浪速高等学校の高等科本館として昭和４年(1929)に竣工したもので、ネオゴシック様式を持った学内最古の建物です。
新制大学として浪速高等学校が大阪大学に吸収されると、教養部本館、共通教育本館（イ号館）を経て、平成23年(2011)に大阪大学会館としてリニューアルされ、現在に至っています。

教養部の変遷

昭和24年(1949)　学制改革に伴い新制大阪大学の「一般教養部」として発足
(旧制)大阪高等学校が一般教養部南校、(旧制)浪速高等学校が一般教養部北校となる。
昭和32年(1957)　教養部に改称。　平成 6年(1994)　大学設置基準大綱化を受け、教養部は廃止され、全学共通教育機構に改組。
平成16年(2004)　大学教育実践センターに改組。
平成24年(2012)　**全学教育推進機構**に改組

2000年当時の
全学共通教育機構

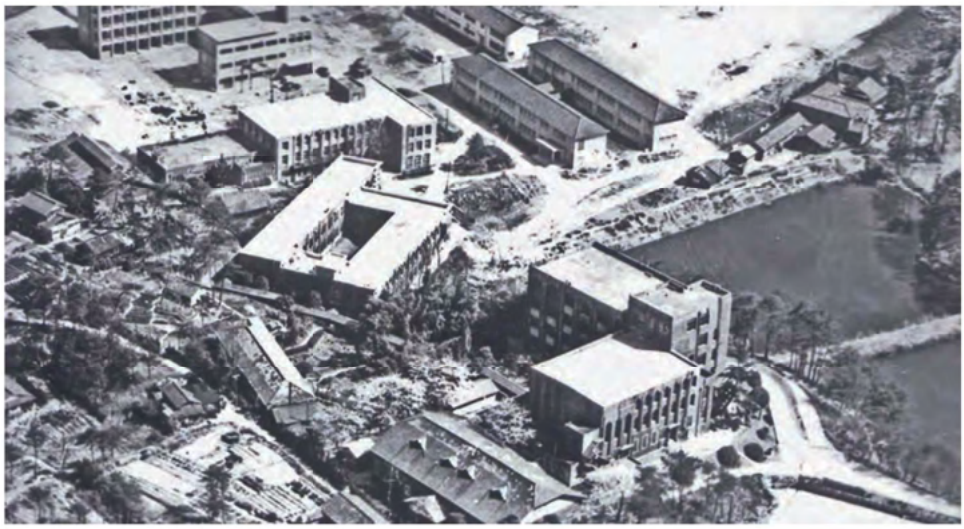
共通教育機構時代の講義棟A・B棟

豊中キャンパスの発展 ②　　文科系学部・附属図書館

昭和23年(1948)文科系学部が発足

教養部二号館の建物を借用して旧制の法文学部が発足し、昭和24年(1949)5月には文学部と法経学部に分離され、昭和28年(1953)文学部、法学部、経済学部に発展した。
これらの学部と一般教養部の教室用建物として昭和26～27年(1951～52)に木造2階建て3棟が新築され、A・B・C棟と呼ばれた。(現在の言語文化研究科周辺にあった)

教養部口号館 の新築(1953～56)の一部が完成した昭和29年(1954)に、文法経の3学部の研究室や事務室として使用された。



昭和30年(1955)当時の豊中地区全景
上部中央あたりに木造2階建てのA,B,C棟が見える

附 属 図 書 館

図書館の本館が豊中地区に移転したのは1953年11月であるが、独立した建物をもったのは 、文法経3学部の第1期工事が終わった1960年3月のことである。

図書館本館

文法経３学部の建物

文学部

法学部

経済学部

文科系３学部の建物は1960年～1967年まで8年かかって3学部と社会経済研究所の共同使用の建物が完成した。その後も、附属図書館の増築や、文学部研究講義棟、法・経講義棟の新築（1972)は続いた。

豊中キャンパスの発展 ③　　基礎工学部　　理学部

昭和37年(1962)当時の豊中キャンパス
右端の真ん中あたりにポツンとあるのが基礎工学部で、
編集長の最初の勤務地でした（１期生の学生３３人だけ）

基礎工学部

昭和36年4月(1961)自然科学と工学技術の著しい発達の時代にあって、その融合を図り、科学技術の根本的な開発を目指すような教育研究を行うことを目標として創設された。

創設趣旨の銘板

（正田建次郎）

昭和39年(1964)基礎工学部と理学部が建設中の豊中キャンパス　　（弓場　宏さん提供）

昭和41年(1966) ほぼ完成した豊中キャンパス

理 学 部

建設中の現場から巨大な古代ワニの化石が発見され、マチカネワニと名づけられた。

中之島から移転した理学部

昭和43年(1968)当時の基礎工学部

豊中キャンパスの発展 ④　医短・言文・健体・国際公共など

医療技術短期大学部　総合学術博物館

この建物は、昭和7年(1932)に浪速高等学校予科跡地へ建てられた医学部附属医院石橋分院で、分院が昭和43年(1968)に廃止された後、1969年医療技術短期大学部となる。手前には多くの職員が利用した職員宿舎があった。同短大は　1993年廃止され、2002年に設置された総合学術博物館(2007年全面改装の待兼山修学館)となっている。

工作センター

昭和41年(1966)に教育研究を支援する全学共同利用施設として、他の国立大学に先駆け設置
平成26年(2014)科学機器リノベーション・工作支援センターへ改組

言語文化部・言語文化研究科

昭和49年(1974)に外国語と言語文化に関する教育研究を行う組織として設置された。
平成元年1989年に設立された同研究科は特定の学部に立脚しておらず、人文、社会、自然科学のいずれの分野からでも受け入れ、それぞれの専門を基礎としながら学際的国際的な立場から言語文化学の確立とその教育研究を行っている。

健康体育部　キャンパスライフ健康支援・相談センター

昭和56年(1981)に教養部保健体育科、保健管理センター及び学生相談室の3組織が合体し、健康に関する教育研究を有機的かつ効率的に行うための組織として誕生した。(平成16年4月に同部は改組)
平成16年4月 保健センターへ改組織
令和3年11月 再編統合し、キャンパスライフ健康支援・相談センターとなる。

国際公共政策研究科

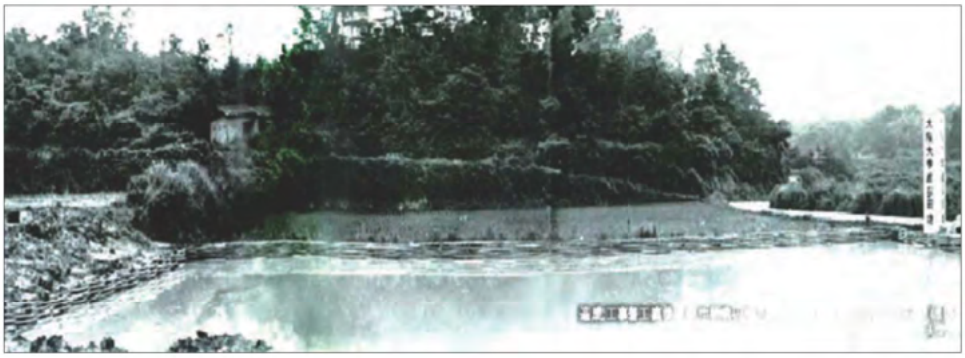
平成6年(1994)　法学部及び経済学部を母胎とし、教養部の教官を加え、さらに社会経済研究所の協力を得て学部を持たない独立大学院として発足した。

吹田キャンパスの誕生 ①　　万博会場と吹田キャンパス全景

吹田地区への統合

1962年昭和37年頃から検討された吹田地区移転は、吹田市一関西財界など各方面の協力もあって実現の運びとなった。

私たちが当たり前のようにすごしている吹田キャンパスは、53年以上前は竹や雑木が茂る今とは異なる風景がひろがっていました。豊中キャンパスの実に2倍の100万㎡を誇る巨大キャンパスの誕生には、当時の関係者の並々ならぬ努力と地域からの大きな応援がありました。



造成直後、微研用地より工学部入口付近を望む(1966年)

1968年に先陣を切って微生物病研究所・同附属病院が中之島地区から移ってきたのに続き産業科学研究所工学部、蛋白質研、溶接研。薬学部、人間科学部、社研、本部や各種センター、などの施設が逐次移転・建築され、一大キャンパスを形成するに至った。

万博会場
上部 中央左に太陽の塔が見える

尖った パビリオンは ソ連館 だったか

吹田キャンパスの誕生 ② 微研・産研・工学部・蛋研・核物・大計

微生物病研究所　（1968年移転）
先陣をきったが周囲には何も無かった

産業科学研究所　（1968年移転）

工 学 部　（1970年移転）

たんぱく質研究所　（1971年移転）

核物理研究センター　（1971年建設）
1955年　理学部附属原子核実験施設
1971年　大阪大学核物理研究センタ発足

大型計算機センター　（1972年建設）
1962年　計算機センター発足
1969年　全国共同利用施設として
　　吹田にセンター建設
2000年　サイバーメディアセンター
　　に改組

吹田キャンパスの誕生 ③　電顕・図吹田分館・溶研・人科・薬・社研

電子顕微鏡センター

1972年　超高圧電子顕微鏡室発足。
1974年　超高圧電子顕微鏡センターに改組
世界最高加速電圧の300万ボルト超高圧電子顕微鏡を保有する学内共同教育研究施設。

附属図書館吹田分館

1970年　吹田分館竣工
2009年　理工学図書館と改称

溶接工学研究所

1969年 工学部附属究施設設置
1972年 溶接工学研究所が発足
1988 年 大阪大学 荒田記念館 竣工
1996 年 接合科学研究所に改称

人間科学部

1972年　日本で最初の人間科学部が大阪大学に誕生。
1975年　吹田キャンパスへ移転

薬 学 部

1975年 蛍ヶ池から吹田キャンパスへ移転

社会経済研究所

1954年 経済学部附属社会経済研究室
1962年 同研究施設となる
1966年 社会経済研究所

吹田キャンパスの誕生 ④ 事務局・レーザー・医学部・医学部付属病院・生命科学分館

事 務 局

1980年　大学創設以来、長年に渡って他部局の部屋や大阪市の建物などを借用してきたが吹田キャンパスに新庁舎が竣工した。
これに伴い事務局はようやくすべての部が一つの建物にまとまることができた。

レーザー核融合研究センター

2004年 工学部附属レーザー工学研究施設
2006年 全国共同利用施設化
2017年 レーザー科学研究所に改組

1993年当時の、医学部、医学部附属病院、生命科学分館

移転当時は敷地の緑もまばらで、モノレールはまだ開通していませんでした。

中之島地区で親しまれてきた医学部附属病院の移転で旧キャンパスの移転は完了した。

医学部

生命科学分館　（後に生命科学図書館

2007　大阪大学と大阪外国語大学が統合

2007年10月1日、大阪大学と大阪外国語大学が統合して、新たな大阪大学が誕生しました。大阪外国語大学は、1921(大正10)年に、大阪上本町の地に大阪外国語学校として創立され、1944(昭和19)年には大阪外事専門学校に改称され、そして1949(昭和24)年には大阪外国語大学が設置され、1979(昭和54)年箕面市(粟生間谷)に移転した。以後、外国語教育・研究の西の雄として大きく発展するとともに、司馬遼太郎などの著名な卒業生を輩出してきました。

大阪外国語学校の設立経緯

林　蝶子女史

大阪外国語大学は大正10年当時の大阪の財界人が持っていた先見性、国際性に加えて、公共に奉仕する衿持を持った一個人によって建てられた国立の学校です。大阪の実業家・林　蝶子女史の、「大阪に国際人を育てる学校を」という理念のもとに、学校設置資金として私財100万円を国家に寄付したことに遡ります。政府はこの寄付金を基に大正11年11月、大阪外国語学校を大阪市天王寺区上本町八丁目の地に創設されたという経緯があります。

上本町8丁目時代の大阪外大

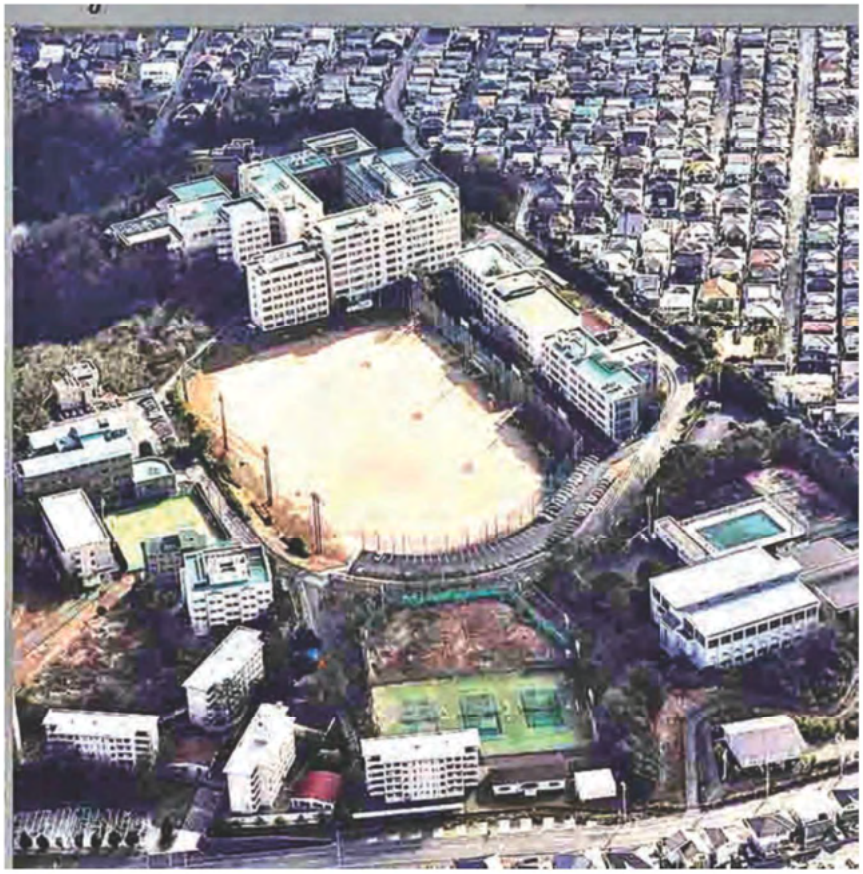
共に市民からの厚い支援によって建学された大阪大学と大阪外国語大学が統合。両大学の持ち味を生かしながら、国際的人材の養成を進める国立の総合大学としては、唯一外国語学部を持つ日本有数の国立大学として、新たな大阪大学が誕生した。

さよなら　大阪外国語大学

そして大阪大学
外国語学部発足

統合記念式典
で式辞を述べる
鷲田総長

出典
大阪大学ホームページ
大阪大学公式Instagram
阪大NOW　2017/No.154
写真提供　阪大広報課
外国語学部



大阪外大のシンボル
世界時計

２０２１年３月

粟生間谷キャンパスを閉じる

1979年から大阪外国語大学のキャンパスとして、2007年10月からは大阪大学外国語学部キャンパスとして、計り知れない人々の想い、思い出が詰まった、その貴重で大切な「粟生間谷キャンパス」は令和３年３月に閉じた。

西尾総長と竹村外国語学部長

外された看板を眺める関係者

大阪大学外国語学部は令和3年4月1日から、箕面市船場東の「新箕面キャンパス」で新しい歴史をスタートした。

吹田キャンパスの現在 ①　　大学院 ・ 学部

人間科学研究科・人間科学部

医学系研究科・医学部

歯学研究科・歯学部

薬学研究科・ 薬学部

工学研究科・工学部

情報科学研究科

2002年4月に、工学研究科、基礎工学研究科、理学研究科に分散していた情報科学に関連する教育研究組織を改組・再編して創設された。

生命機能研究科

2002年4月設置
生命科学の最先端を切り開くリーダーの育成を目指す研究機関です。

連合小児発達学研究科

5つの大学の、異なった背景を持つ子どもの心の研究者が集い、既存の領域を超えた新しい学際領域で子どものこころの問題に対して科学的な視点で対処できる人材を育成する3年制後期博士課程大学院です。

吹田キャンパスの現在 ②　　図書館・研究所・全国共同利用施設

理工学図書館

生命科学図書館

産業科学研究所

微生物病研究所

社会経済研究所

たんぱく質研究所

接合科学研究所

レーザー科学研究所

吹田キャンパスの現在 ③　全国共同利用センター・附属病院・世界拠点

核物理研究センター

サイバーメディアセンター

医学部附属病院

歯学部附属病院

免疫学フロンティア研究センター

世界トップレベルの「目に見える拠点形成」を目的とした、文部科学省の「世界トップレベル国際研究拠点プログラム(WPI)」に採択され2007年10月1日に発足した

吹田キャンパスの現在　④　大学本部等・吹田キャンパス全景

吹田地区正門

大学本部

産学共創棟

テクノアライアンス棟

吹田キャンパス全景

豊中キャンパスの現在 ①　　大学院 ・ 学部

※文学研究科・文学部

法学研究科・法学部

経済学研究科・経済学部

理学研究科・理学部

基礎工学研究科・基礎工学部

※言語文化研究科

国際公共政策研究科

高等司法研究科

2004年　高等の法的知識・能力、豊かな人間性、厳しい職業倫理を備えた法曹を養成することを目的として設置

※2022年4月に文学研究科と言語文化研究科の統合によって、「大学院人文学研究科」が発足する予定です。

豊中キャンパスの現在　② 全学教育推進機構・総合図書館・サイバー・低温

全学教育推進機構

総合図書館

本学最大の図書館、多彩なスペースと多様で豊富な資料を収容し、教育研究全般を支え、学生が自ら知を切り拓いていくことを支援しています。2階には多くの学生が集まる場所としてラーニング・コモンズを拡充。3階の貴重コレクション室には、総合図書館で所蔵する貴重な資料が一堂に集まっています。

サイバーメディアセンター
2002年　　豊中教育研究棟竣工

低温センター

液体ヘリウムの製造と寒剤供給によって低温を用いた教育と研究を支えています。豊中分室と吹田分室がある。

豊中キャンパスの現在 ③ 総合学術博物館・文理融合型研究棟・正門等

豊中キャンパス正門石柱

総合学術博物館

2002年4月　大阪大学総合学術博物館が発足
2004年4月　イ号館1階に展示場を開設
2005年8月　待兼山修学館（旧医療技術短期大学部本館）史料準備館として一般公開
2007年8月　待兼山修学館展示場オープン

大阪大学が創立以来収集・保管してきた学術標本を展示公開するとともに、大阪大学の最新の教育・研究成果を展覧会の形式で紹介している

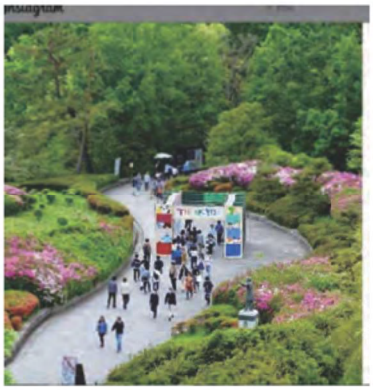
豊中正門とモノレール

文理融合型研究棟

2013年度築　理学研究科と基礎工学研究科の間に位置しリノベーションセンター、国際人材育成教育拠点や未来戦略機構が入居及びオープンラボとして利用されるなど文系・理系の融合を目指した複合教育研究施設です。

中山池

豊中キャンパスの現在 ④　　阪大会館・グラウンド・豊中キャンパス全景



阪大会館から石橋門方面を望む

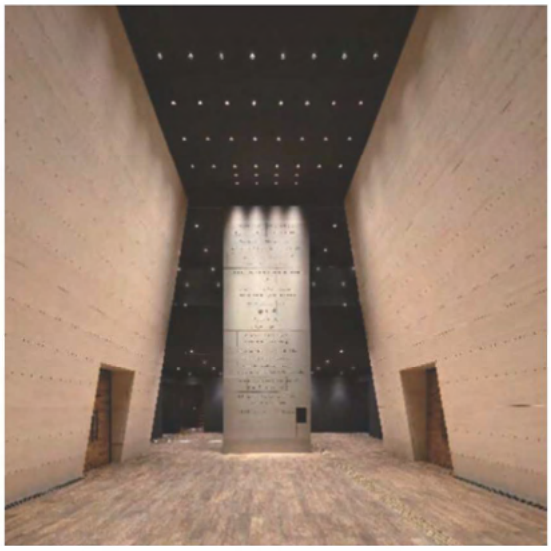
グラウンド

豊中キャンパス全景

2021　箕面新キャンパス開学

地上10階 延面積約24,896㎡

令和3年4月1日、箕面市船場地区にOUグローバルキャンパスが誕生しました。新たなキャンパスは「地域に生き世界に伸びる」という大阪大学のモットーのもと、グローバル人材育成拠点となることを目指しています。建物の外観は、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年のスローガン「想い　つなげる　つむぎあう」を象徴とする形態として、人が手をつないでいるような構造フレームが特徴となっています。



25の言語のモニュメント

建物に入ると、すぐ多言語の格言が書かれたモニュメントが出迎えてくれます。外国語学部が有している25の専攻語の格言が刻まれています。学びの多様さを実感できますね。ちなみに、日本の格言は和歌の「古の奈良の京の八重桜　今日九重に匂ひぬる哉」です。

R3.4.1　箕面新キャンパス竣工記念式典

外国学図書館
箕面市立船場図書館と大阪大学図書館が一体化した新たな運営形態の図書館となる。

建物の内部は、プレゼンテーションスペースとしても活用できる階段状のラウンジやアクティブな共同学習の場となる学生交流スペース等、グローバル人材育成のための活発な交流が生まれる施設となっています。

光と平和の広場

学生交流スペース

。

旧キャンパスの世界時計移設

旧大阪外国語大学の歴史と伝統を継承するため、親しまれていた世界時計を旧キャンパスから移設

食堂（取材時あいにくコロナ禍でお休み中）撮影のため電気を点けていただきました

令和3年10月2日～3日に、新しい箕面キャンパスをメイン会場とした「箕面国際フェスティバル」が開催されました。
（３枚の写真は、ナカムラ　マキさん提供）

中之島キャンパスの再開発事業　　中之島センター

文化・芸術・学術・技術　四つの知の交差点

中之島アゴラ構想

２004年に開設した中之島センターを改修、機能強化し、産官学民の連携により文化・芸術・学術・技術という「四つの知が交差する社学共創、アート、産学共創のグローバル発信拠点を形成します。

中之島センターは、2021年3月以降　一時閉館中
2022年2月　中之島センター　改修工事着工予定

キャンパスのあれこれ　①　　大阪大学の地下に眠る遺跡

大阪大学の地下に眠　る遺跡

大学構内の建設工事に関連した文化財調査を行うために文学部・大学院文学研究科に埋蔵文化財調査室がおかれています。

豊中キャンパス

待兼山古墳出土品一部

豊中キャンパスはその全域が待兼山遺跡として遺跡台帳に登録されている。

待兼山遺跡の長年にわたる発掘調査によって、待兼山周辺は、古墳時代から奈良・平安時代、中・近世にいたるまで時代を超えて墓域として利用されていたことが判明しています。

2005年の調査では、５世紀後半の古墳（待兼山５号墳）とともに、大阪府下でも有数の火葬墓群が発見されました。

2011年には、総合学術博物館修学館の北側において発掘調査を実施し、火葬墓や古代の土器棺が発見されました。こうした地道な調査活動によって、待兼山遺跡の実態が鮮明なものとなってきたのです。なお、発掘調査による出土品の一部は、大阪大学総合学術博物館に展示されています。

大阪大学中之島センター付近

蔵屋敷は堂島･中之島を中心に、多い時で100以上あり、各藩から年貢米や特産品が集められ、そこから売りさばかれた。とくに、米は当時の経済の根幹をなす商品で、蔵屋敷は｢天下の台所｣の象徴であった。

近年の調査成果によって、吹田キャンパスの地下にも埋蔵文化財が包蔵されていることがわかり、山田丘遺跡と名付けられました。

文科系建物、中庭の石室

在職中から、なぜここに石室があるんだろうと思っていた。実は文学部に文化財調査室があって、ある地域の発掘調査で見つかった石室が、ここで保管されているということです。詳細は現地を訪れて説明書でご確認ください。

写真は法学部、滝本健治さん提供

キャンパスのあれこれ　②　　マチカネワニ　・　ワニ博士

阪大の至宝　マチカネワニ

埋蔵物といえば忘れてならないのが「マチカネワニ」です。1964年、大阪大学豊中キャンパス理学部の新校舎工事現場にて、大発見されたワニの化石（マチカネワニ）日です。これは、日本で発見されたワニ類の化石の第一号となり、頭骨の長さが１メートルを優に越え、ワニ類の中でも大型（体長6.9 ~ 7.7 m、体重1.3 t）に属します。

大阪大学公式マスコットキャラクター
「ワニ博士 」はワニの化石（マチカネワニ）を元に誕生しました。

ここんとこマスクが必要ですねん

交通ルールも守ります

阪大本部玄関でお出迎えしてます

キャンパスのあれこれ　③　　大高の森 ・ 浪高庭園 ・像

旧制大阪高等学校と浪速高校
ともに1950年に廃校となり、新制大阪大学に包括され、それぞれ、一般教養部南校、一般教養部北校となりました。

旧制大阪高等学校を記念する「大高の森」

青春の像

大阪高等学校（1921年、大阪天王寺に設立）は官立の旧制高等学校として設立され、修業年限は3年で、理科丙類（フランス語）を有するのは同時創設の東京高等学校と大阪高等学校だけでした。1950年に廃校ちなり、新制大阪大学に包括され、一般教養部南校となり、その後廃止された。
1991年に埋設された旧制大阪高等学校同窓会のタイムカプセルが創立100周年の2021年11月6日に無事発掘され、南部陽一郎ホール（理学研究科）にて関係者を集め開封式が行われました。

旧制浪速高等学校を記念する「浪高庭園」

旧制浪高生の像

浪速高等学校（1926年、大阪豊中に設立）は府立大阪医科大学予科を発展的に解消して設立された大阪府立の旧制高等学校で、尋常科4年を含む7年制でした。 1950年に廃校となり、新制大阪大学に包括され、一般教養部北校となりました。（その後の経緯は62ページ参照）

まちかね童子

阪大会館からの眺望

キャンパスのあれこれ　④　　阪大の文化財

阪大の文化財

大阪大学会館

大阪大学会館は昭和3年（1928年）に旧制浪速高等学校の校舎として建設され、学制改革により大阪大学に移管され、創立当初から現存する建物で、平成16年（2004年）に国の登録有形文化財建造物に指定された。平成23年（2011年）の大阪大学創立80周年の時、「阪大人の共通の思いを寄せる施設」「大阪における学術の伝統を受け継ぐシンボル」として大阪大学会館として再整備された。
本建物の外装は特徴的なアールデコ様式の意匠、外観の保存を図りながら省エネ、バリアフリー改修、耐震改修を行い建物の基本性能の向上を図っている。外壁の色についても幾度にも渡る改修された塗装を撤去して竣工当時の色調を調査したり、卒業生に対して記憶の調査を行うなどして、オリジナルに近い色調に再現している。

待兼山修学館

この建物は、1931年に大阪大学医学部の前身である、大阪医科大学の附属病院石橋分院として建てられ、近年は、医療技術短期大学部本館として使われていました。
豊中キャンパスでは大阪大学会館に次いで2番目に古い建物です。2008年に国の登録有形文化財になり、待兼山修学館としてリニューアルオープンしました。

修学館の後には標高77.3mの待兼山があります。
ここは古代から人がくらしており、いくつもの古墳が発掘されています。景勝地としても古くから有名で、歌枕として古歌に詠まれるとともに、大阪に残された数少ない里山です。
待兼山修学館と大学会館を結んで、待兼山の山中を遊歩道が結んでいます。遊歩道を散歩し思索を深めるのはどうでしょうか。

この記事の内容は、総合学術博物館のホームページから引用させていただきました。

キャンパスのあれこれ　⑤　　学 章

学 章

この学章は、大阪大学創立６０周年を記念して制定された。

■制作者■

田中一光（関西が生んだ世界的グラフィックデザイナー）

■制作意図■

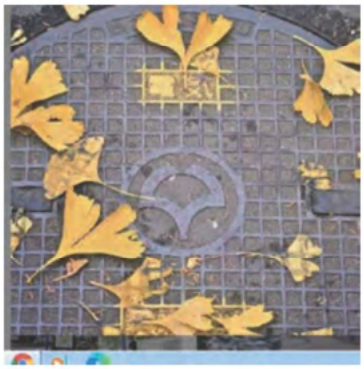
６０年の伝統を持つ銀杏をモチーフに、３つの円弧による造型の中に「ＯＳＡＫＡ」のＯをしのばせ、歴史ある大学としての知性と格調を失うことなく、大学、学生、市民へと連なる親近感を表現した。

■スクールカラー■

スカイブルー

阪大部局別
ブレンドコーヒー

阪大オリジナル
ウイスキー　光吹



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

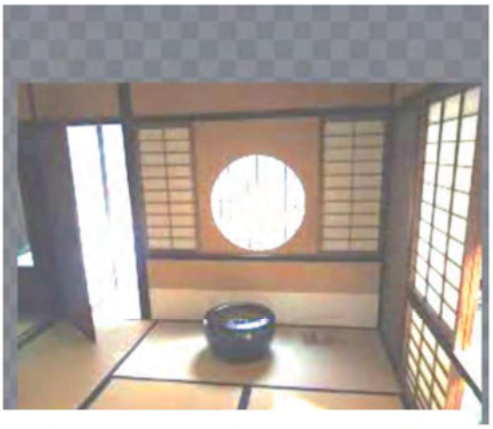
天神祭りに阪大船が出た時もあった

キャンパスのあれこれ　⑥　大阪大学の原点　適塾　・　懐徳堂

適　塾

1931年に創設された大阪大学。その原点となるのが「適塾」

適塾は、幕末から明治維新にかけて、緒方洪庵が開いた蘭学の私塾で　、福沢諭吉、大村益次郎、佐野常民、高峰譲吉など多くの名士を輩出した。
1941年に国史跡、1964年に重要文化財に指定されています。



都会に残された江戸の佇まい

高層ビルが立ち並ぶ淀屋橋・北浜界隈。そこに時が止まったかのような佇まいを残す江戸時代後期の町屋で、現存する我が国唯一の蘭学塾の遺構として貴重なものです。

1869年に洪庵の息子緒方惟準を院長として設立された大阪仮病院と、オランダ人医師ボードウィンを迎えて惟準はじめ適塾門人らを中心として創立された大阪医学校は、幾多の変遷を経て大阪帝国大学医学部へと発展し、今日の大阪大学へと至っています

適塾の建物は、1942年に国（当時の大阪帝国大学）の所有となり、1976年から4年間にわたる改修を経て現在広く一般に公開されています。

懐徳堂

重建懐徳堂

懐徳堂は、1724年、大坂町人によって創設された学問所です。江戸時代の後半約140年にわたって大坂学術の発展と商道徳の育成に貢献しました。幕末維新の動乱により、1869年、百四十余年の歴史を閉じました。一旦閉校した懐徳堂は、1916年に再建され、1945年の大阪大空襲によって焼失するまで、大阪の市民大学・文科大学として多くの市民に親しまれました。

重建懐徳堂は大阪大空襲によって焼失したが、書庫は焼失を免れ、その中に収められていた貴重な蔵書約3万6千点は現在大阪大学で大切に保管され研究が続けられています。

大阪大学千石会　会　則

（名称）

第1条　この会は、「大阪大学千石会」と称する。

（事務所）

第2条　この会の事務所は、吹田市山田丘1－1大阪大学に置く。

（目的）

第3条　この会は、大阪大学に事務系職員として在職した者が、終生互いに交流し、親睦を**重ねることを目的とする。**

第3条の2　この会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる行事等を行う。

(1)会の運営に必要な事項の協議及び会員の親睦を図るための、総会の定期的な開催。

(2)会員の名簿及び近況報告等の作成、配付。

(3)インターネットを活用した会員への情報　　提供、会員間の情報交換の場の提供

(4)会員の慶弔等の情報収集及び対応する措置の実施。

(5)その他本会の目的を達成するため必要な事項。

2　第1号の総会は年1回開催することを常例とする。

（会員）

第4条　この会の会員は、次の各号に掲げる者とする。

(1)大阪大学に事務系職員として永年在職し退職した者

(2)大阪大学の事務系職員として在職した者で、文部科学省その他国立学校等に転出した後退職し入会を申し出た者

（賛助会員）

第5条　大阪大学の課長補佐（相当職を含む）以上の職員で、この会の目的に賛同する者は、大阪大学在職中この会の賛助会員となることができる。

2　賛助会員は、総会その他の事業等に参加することができる。

（役員及び役員会）

第6条　この会に次の役員を置く。

（1）会　長　　1名

（2）副会長　　2名

（3）幹　事　　3名

（4）協議員　　若干名

2　この会に、必要に応じて顧問を置くことができる。

3　会の重要事項を審議するため、前2項の者で構成する役員会を置く。

ただし、大阪大学の現職にある顧問は役員会の構成に含めないものとする。

（役員の任務）

第7条　会長は会務を総理する。副会長は会長を助け、会長不在の場合会長の職務を代行する。幹事は会の庶務、会計、監査を分担する。

,（役員等の選出及び任期）

第8条　会長、副会長及び幹事は、役員会で選出し、任期は2年とする。

2　協議員は、会員がそれぞれ所属していた部局等を考慮して役員会で選出し、総会において同意を得た者で、任期は2年とする。

ただし、再任された協議員については、総会においての報告事項とする。

3　役員は満75歳をもって定年とする。

ただし、任期中にその年齢に達した場合は、その任期満了をもって定年とする。

4　顧問は、役員会で選出し、任期は2年とする。

ただし、大阪大学の現職にある顧問はこの限りではない。

（会費）

第9条　この会を維持するため、会員は年額1，000円を会費として納入することとし、賛助会員は賛助会員となったときに1,000円を納入することとする。

ただし、人事異動により他大学等に転出した賛助会員が、再び大阪大学に転入し賛助会員となる場合は、会費の納入は要しないものとする。

2　総会に要する費用は別途開催の都度集める。

附　則　・この会則は、昭和57年5月29日から施行する。

・この改正は、昭和59年6月2日から施行する。
・この改正は、平成21年11月11日から施行する。
・この改正は、平成24年11月9日から施行する。
・この改正は、平成25年11月8日から施行する。
・この改正は、平成29年11月10日から施行する。
・この改正は、令和3月年8月10日から施行する。

申合せ

（昭和57年5月29日総会決定、平成21年11月11日総会改訂）

1　第4条第1号において「永年在職し」とあるのは、「概ね20年以上在職し」と解することとする。

申合せ

（平成12年11月10日総会決定、平成21年11月11日総会改訂）

第5条第1項において、「相当職」とあるのは室長補佐、事務長補佐、専門員、主任専門職員、班長（産業科学研究所技術室に限る。）及び技術専門員」と解することとする。

申合せ

（平成21年11月11日　総会決定）

統合により大阪大学の事務系職員となった大阪外国語大学の事務系職員については、大阪外国語大学における在職期間を大阪大学の在期間と見なすこととする。

申合せ

（平成25年11月8日　総会決定）

この会則で事務系職員とは、医療職及び教育職以外の者とする。

申合せ

（平成25年11月8日　総会決定）

1. 入会手続き等

本会への入会は、あらかじめ入会資格が生じる者を把握し、本会の趣旨・目的等を案内して積極的に勧誘するものとする。

2. 退会手続き等

会員は、随時退会を申し出ることができる。退会の申し込みがなかった場合においても、3年間会費が納入されなかった場合は退会したものと見なす。

3. 会費の納入

会費は、原則として毎年納入するものとする。 ただし、数年間分を一括して納入することを防げない。

退会の申し出をした者又は3年間未納のため退会扱いとなった者が会員として復帰を希望する場合は、その間の未納の会費を一括して納入しなければならない。

3年未満の滞納者についても会員の継続を希望する場合は同様とする。

編 集 後 記

創立40周年事業の一つとして「40年史」を刊行する計画が企画委員会でたてられ、令和2年7月の役員会で承認された。

その後8月中旬ごろ記念誌作成の編集長を依頼された。　これを引き受けたら、かなりのエネルギーと時間を使う作業になるだろうと思案したが、長年お世話になった千石会への恩返しのつもりでお引受けした。

令和2年は調査の年と考えたが、コロナ禍により主にネットや電話による資料の収集に制限された。令和3年になってもコロナ禍は収まらず、2年連続で総会・懇親会が中止となり、40周年の懇親会に計上していた経費を記念誌作成に廻すことが役員会で了承された。本来なら喜ぶべきことだが、編集作業を業者に委託する予算は無く、すべてのページを手作りでという条件なので、増ページ作成を含めると時間的余裕がなくなった。もとより編集に経験がなく、編集のソフトを利用したが、一個人しか利用できず、他の人に協力を仰ぐさまたげになったことは大失敗であった。

また、原稿作成中には体力の問題のほか、致命的なパソコントラブルに何度も見舞われたが、藤井企画委員長のひとかたならぬ助けをいただいたことは忘れられない。

西尾大阪大学総長はじめ寄稿も多くの方から寄せられ、大阪大学総務課、広報課、外国語学部等からの資料提供、なかでも９０歳を超える思いも寄らない会員からの写真提供には感激した。

また、無理な注文をよく聞いていただいた(株)龍史堂の諸氏には深謝します。
ここに４０年史作成にご協力いただいたすべての方々に心より謝意を表したい。

この４０年史が、これからも続くであろう千石会の歴史のなかの一つの記念誌として多くの人の目に触れるならば望外の喜びである。

千石会４０年史　編集長　　楠 本 征 三

大阪大学千石会４０年史

2022年１月30日発行

発　行　：　大阪大学千石会

編　集　：　千石会４０周年事業企画委員会

印　刷　：　株式会社　龍史堂
池田市石橋3－3－1
Tel　072－762－7169